

幕末開国期における日蘭貿易
— 安政3年（1856）の本方荷物と脇荷物の取引 —

石田 千尋

「鶴見大学紀要」第51号 第4部

人文・社会・自然科学編（平成26年3月）別刷

幕末開国期における日蘭貿易

—安政3年（1856）の本方荷物と脇荷物の取引—

石田 千尋

はじめに

幕末開国期の日蘭関係については、従来、オランダが日本にもたらした海外情報に関するものや、オランダの対日政策をはじめとする政治的交渉面に注目した研究がみられる。⁽¹⁾しかし、具体的な取引商品や数量をともなった貿易の実態面においては、長崎貿易全体からみた小山幸伸『幕末維新时期長崎の市場構造』（御茶の水書房、平成18年）を除いてほとんど注目されなかった。この時期における日蘭貿易は従来の形態を次第に変え、後に米・英・露・仏と共に自由貿易へと変遷していく時期であり、日本貿易史における重要な転換期と考えられる。

安政2年12月23日（1856年1月30日）に日蘭和親条約が調印され、貿易に関しては従来の「振合」によることとされた。その後、この条約が批准された安政4年8月29日（1857年10月16日）、同じ日付で日蘭追加条約が調印され、貿易では従来の会所貿易の形態が温存された。しかし、具体的な取引においては、脇荷商法を拡大する形がとられた。すなわち、オランダ船の輸入品は長崎会所において直接商人が入札をおこない、その代料もしくは「代り品」は落札商人から会所に納めるといったものであった。⁽²⁾輸入品をオランダ人より長崎会所が値組の上で一括購入し、それを長崎会所が日本商人に入札で販売するという本方商法に比べて、この脇荷商法は、長崎会所のもとでの取引ではあるが、オランダ側にとっては貿易の自由化を進めるものであったといえる。⁽³⁾

本稿では、日蘭貿易において「脇荷商法を拡大する」時期を迎える直前の安政3年（1856）に焦点を絞り、本方商法で取引された本方荷物と、脇荷商法で取引された脇荷物を具体的に提示検討し、それぞれの取引でどのような品々があつかわれ、どれくらいの貿易規模であったのかを明らかにし、今後の幕末開国期における日蘭貿易の研究序説としたい。また、幸いにも安政3年に本方・脇荷で取引された反物類に関する史料（反物切本帳）が数冊現存していることより、反物切本帳の紹介もあわせておこなうこととする。

第1章 安政3年（1856）の本方荷物・脇荷物の取引に関する史料

安政3年（1856）には、「阿蘭陀商賣船」として7月20日（新暦8月20日）にファルパライソ号Valparaisoと、翌日7月21日（新暦8月21日）にレシデント・ファン・ソン号Resident van Sonが長崎港に入津している。⁽⁴⁾

以下、安政3年、オランダ船2艘によって持ち渡られた本方荷物と脇荷物の取引を解明しうる日蘭両史料について紹介していきたい。

はじめに、本方荷物の取引史料についてみていく。当時の本方荷物は、バタヴィアの東インド政庁の会計に属する商品群であり、直接政庁の損益にかかわるものであった。本方荷物が取引された本方貿易は、上述の如く輸入品をオランダ人より長崎会所が値組の上で一括購入し、それを長崎会所が日本商人に入札で販売するものであった。安政3年の場合、具体的に本方荷物の取引を記すオランダ側史料としては、Bijlaag No.3. Komsverkoop in 1856（付録文書3 1856年の本方販売）を挙げることができる。⁽⁵⁾本史料は、Koms rekening courant Ao.1856（日本商館勘定帳）の付録文書群Bijlagen Koms rekening courant Japan 1856に含まれているものであり、本方荷物として日本側（長崎会所）に販売された商品名、数量、価格、価額を記している。さらに、本方貿易では通常「別段商法」として扱われる追加の取引商品を記したRekening van den Aparten Handel 1856⁽⁶⁾とRekening van den Nieuwen Aparten Handel 1856⁽⁷⁾の2史料もこの年の本方荷物の取引史料といえる。

本方荷物の取引を記す日本側史料としては、管見の限り「〔落札帳〕〔安政三年〕辰一番割至七番割」⁽⁸⁾を挙げることができる。本史料は、長崎の商人村上⁽⁹⁾によって作成されたものであり、安政3年に長崎会所において商人に対しておこなわれた1回目から7回目までの入札取引を記したものである。本史料には、商品名、数量、入札上位三番札までの価格と商人名を記録している。本方荷物の取引は、「辰五番割」（十月七日付入札）でおこなわれた。⁽¹⁰⁾

表1 安政3年(1856) オランダ船2艘 (Resident van Son, Valparaiso) 本方荷物の取引

	Komsverkoop			
	Goederen	Hoeveelheid	販売価格(単位:テール)	販売価額(単位:テール)
(1)	laken zwart	84.12 ikjes	10.0 / ikje	841.20
	laken overige kleuren	153.18 ikjes	8.0 / ikje	1,225.44
(2)	<ul style="list-style-type: none"> wit aschgrauw lichtblauw groen olijf grijs 	101.63 ikjes	5.0 / ikje	508.15
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)	<ul style="list-style-type: none"> zwart aschgrauw groen olijf 	10.10 ikjes	4.5 / ikje	45.45
(9)				
(10)				
	grein overige kleuren	34.60 ikjes	4.3 / ikje	148.78
(11)	<ul style="list-style-type: none"> groen olijf olijf wit zwart lichtblauw 	108.0 ikjes	5.0 / ikje	540.0
(12)				
(13)				
(14)				
(15)				
(16)	<ul style="list-style-type: none"> schaaurood violet olijfsensaai 	24 stuks	10.8 / stuk	259.2
(17)				
(18)				
(19)	taffachelassen verbeterde	22 stuks	10.5 / stuk	231.0
(20)	taffachelassen extra fijn 1 ^o soort	309 stuks	10.7 / stuk	3,306.3
(21)	taffachelassen extra fijn 2 ^o soort	800 stuks	10.0 / stuk	8,000.0
(22)	Europesche sitsen 1 ^o soort	43 stuks	19.2 / stuk	825.6
(23)	Europesche sitsen 2 ^o soort	25 stuks	15.6 / stuk	390.0
(24)	Bengaalsche sitsen	560 stuks	3.2 / stuk	1,792.0
(25)	Patna sitsen	682 stuks	2.25 / stuk	1,534.5
(26)	olifants tanden 1 ^o soort	408.975 katties	2.5 / kattie	1,022.4375
(27)	olifants tanden 2 ^o soort	221.445 katties	2.0 / kattie	442.89
(28)	[olifants tanden 3 ^o soort]	[423.9375 katties]	[1.0 / kattie]	[423.9375]
(29)	kruidnagelen	3,205.31 katties	1.5 / kattie	4,807.965
(30)	peper	6,294.56 katties	0.15 / kattie	944.184
(31)	tin	29,700.0 katties	0.25 / kattie	7,425.0
(32)	<tin>	<60,243.48 katties>	<50.0 / picol>	<30,121.74>
(33)	[kaliatoerhout]	[3,110.3 katties]	[0.05 / kattie]	[155.515]
(34)	[kwikzilver]	[153.11625 katties]	[1.0 / kattie]	[153.11625]
(35)	[notenmuscaat]	[300.0 katties]	[1.0 / kattie]	[300.0]
(36)	[notenmuscaat]	[121.9425 katties]	[0.6 / kattie]	[73.1655]
(37)	sapanhout	51,039.338 katties	0.055 / kattie	2,807.16359
(38)	[sapanhout]	[70,804.83183 katties]	[0.055 / kattie]	[3,894.26575]
(39)				
(40)				
(41)	suiker	45,542.071 katties	0.07 / kattie	3,187.944970
(42)				
(43)	platlood	92.07 katties	0.08 / kattie	7.3656

落 札 帳			
商 品	数 量	落 札 価 格	落 札 商 人
辰阿蘭陀船本方			
黒 大 羅 紗	5 端	260 匁 9 分	永井ヤ
白 大 羅 紗	1 端	480 匁 9 分	立見ヤ
藍 鼠 色 大 羅 紗	2 端	329 匁	立見ヤ
花 色 大 羅 紗	1 端	286 匁 9 分	永井ヤ
茶 色 大 羅 紗	4 端	228 匁	豊嶋ヤ
霜 降 大 羅 紗	1 端	284 匁	豊嶋ヤ
黒 ふ ら た	2 端	130 匁	松田ヤ
藍 鼠 色 ふ ら た	2 端	173 匁	福井ヤ
茶 色 ふ ら た	2 端	117 匁 3 分	豊嶋ヤ
緋 呉 羅 服 連	1 切	111 匁 6 分	竹のヤ
藍海松茶色呉羅服連	1 端	113 匁	春日ヤ
茶 色 呉 羅 服 連	1 端	108 匁 9 分	立見ヤ
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—
緋 テ レ フ	2 端	183 匁	豊嶋ヤ
桔 梗 色 テ レ フ	2 端	217 匁	天さ
藍海松茶色テレフ	2 端	140 匁	松田ヤ
尺 長 赤 金 巾	28 端	392 匁	河内ヤ
上 奥 嶋	22 端	363 匁	金沢ヤ
壺 番 新 織 奥 嶋	357 反	389 匁	豊嶋ヤ
式 番 新 織 奥 嶋	800 反	292 匁	中ノ
壺 番 尺 長 上 皿 紗	43 端	235 匁 2 分	永井ヤ
式 番 尺 長 上 皿 紗	25 端	190 匁	豊嶋ヤ
弁 柄 皿 紗	560 端	49 匁 2 分	松田ヤ
皿 紗	689 端 [439 反]	51 匁	瑞ヤ・計
壺 番 象 牙	399 斤 5 合	120 匁	入来ヤ
式 番 象 牙	219 斤	119 匁 1 分	春日ヤ
三 番 象 牙	420 斤 5 合	116 匁 3 分	松田ヤ・計
丁 子	3,300 斤	22 匁 9 分 8 厘	吉更ヤ
胡 椒	6,349 斤	2 匁 8 分 5 厘	松田ヤ
い ろ 錫	55,000 斤	10 匁 6 分 9 厘 3 毛	富ヤ
ろ 錫	35,590 斤	11 匁 2 分	權・親
紫 檀	3,040 斤	5 匁 7 分 9 厘	の田ヤ
水 銀	163 斤	43 匁 6 分 9 厘	の田ヤ
肉 豆 蔻	424 斤	21 匁 9 分	永井ヤ
い 蘇 木	45,000 斤	13 匁 7 分 5 厘	松本ヤ
ろ 蘇 木	45,000 斤	14 匁 2 分	權・柁
は 蘇 木	48,000 斤	14 匁 9 分 5 厘	權・親
壺 番 白 砂 糖	80,000 斤	2 匁 7 分 9 厘 7 毛	入来ヤ・の田ヤ
式 番 白 砂 糖	82,320 斤	2 匁 7 分 6 毛	瑞ヤ・計
荷 包 鉛	95 斤	5 匁	豊安

	Kompsverkoop			
	Goederen	Hoeveelheid	販売価格(匁・テール)	販売価額(匁・テール)
(44)	laken schaaurood	17.38 ikjes	10.0 / ikje	173.80
(45)	suiker terug van de hofreis	22,295.909 katties	0.008 / kattie	178.36
(46)	suiker voor de hofreis	14,372.156 katties	0.062 / kattie	891.073672
(47)	Spaansche matten	3,500 wegende 2,516.22 t.	2.91394 / t.	7,332.1141068

出典・Kompsverkoop は、Bijlagen Komps rekening courant Japan 1856. MS.N.A. Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910, I : No.194). (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-133-42).
・落札帳は、「[落札帳] [安政三年] 辰一番割至七番割」(杏雨書屋所蔵村上家文書)。

次に、脇荷物の取引史料についてみていく。脇荷貿易はそのはじまりである17世紀より、オランダ商館長以下の館員や船員の役得として許された私貿易品の取引であった。1827年(文政10)バタヴィア政庁は商館職員・船員らの脇荷貿易組合 Particuliere Handel-societeitの結成を承認して5万グルデンを限度とする貿易を許した。ところが、1831年(天保2)には、この組合は解消され、その数年後、脇荷貿易をおこなう権利はバタヴィアで入札に付され、落札者が脇荷貿易権の賃借人として長崎で貿易することに改められ、商館職員・船員の私貿易関与・参加は排除された。⁽¹¹⁾その後、賃借人による脇荷貿易は1854年(安政元)までつづいたが、1855年(安政2)からは脇荷貿易もバタヴィア政庁によっておこなわれることとなり、⁽¹²⁾本稿で考察する安政3年の脇荷貿易も本方貿易同様、政庁がおこなっていたものである。これは、「はじめに」で記した日蘭貿易において「脇荷商法を拡大する形」でおこなう貿易取引の前段階とみることができ、オランダ側がすでに日本との自由貿易にむけて布石を打っている時期のあらわれといえよう。

上述の如く脇荷貿易は本方貿易と異なり、オランダ人が持ち渡った商品を長崎会所において日本商人が直接入札する取引であった。安政3年の場合、具体的に脇荷物の取引を記すオランダ側史料としては、Bijlaag No.6. Kambang Handel. Kambang verkoop in 1856. (付録文書6 脇荷貿易 1856年の脇荷販売)を挙げるができる。⁽¹³⁾本史料は、Kambang rekening courant 1856 (日本商館脇荷勘定帳)の付録文書群 Bijlagen Kambang-rekening Japan 1856に含まれているものであり、脇荷物として日本商人に販売された商品名、数量、価格、価額を記している。

脇荷物の取引を記す日本側史料としては、管見の限り、本方荷物同様「[落札帳] [安政三年] 辰一番割至七番割」を挙げるができる。脇荷物の取引は、

「辰四番割」(十月二日入札、四日未刻済)でおこなわれた。なお、「辰紅毛船追脇荷」「辰紅毛品代り」も同様「辰四番割」で取引されている。また、この「辰四番割」だけを記した「[辰紅毛脇荷見帳] [安政三辰四番割]」⁽¹⁴⁾が現存しており本稿では補助的に使用する。⁽¹⁵⁾

第2章 安政3年(1856)の本方荷物・脇荷物の取引一覧表

第1章において紹介したオランダ側史料と日本側史料を突き合わせて一覧表にしたものが表1・2である。

表1においては次のことを注記事項として掲げておく。

- ・品目は「落札帳」に記されている順に並べた。
- ・オランダ側商品名各単語の表記については、その頭文字は、基本的には小文字とし、地名は大文字で記した。
- ・オランダ側商品名で用いられているidem、ク(=同)、日本側商品名で用いられている「同」は、それに相当する単語を記した。
- ・数字は基本的に算用数字で記した。
- ・「-」は、史料に記載のないことを示す。
- ・100 katties = 1 picol.

同様に表2においては次のことを注記事項として掲げておく。

- ・品目は「落札帳」に記されている順に並べた。
- ・オランダ側商品名各単語の表記については、その頭文字は、基本的には小文字とし、地名・人名は大文字で記した。
- ・オランダ側商品名で用いられているidem、ク(=同)、日本側商品名で用いられている「同」は、それに相当する単語を記した。
- ・数字は基本的に算用数字で記した。
- ・「-」は、史料に記載のないことを示す。

落 札 帳			
商 品	数 量	落 札 価 格	落 札 商 人
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—

- ・ []内は、Rekening van den Aparten Handel 1856. MS.N.A.Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910, I : No.227). (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-134-32)。
- ・ < >内は、Rekening van den Nieuwen Aparten Handel 1856. MS.N.A.Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910, I:No.227). (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-134-32)。
- ・ []内は、「安政三 辰四五番割 辰紅毛船本方脇荷切本帳」(長崎歴史文化博物館所蔵)。

・ *で記した商品・数量・価格については、オランダ側史料と日本側史料とを1品1品照合することが困難であるため、日本側史料の商品に照合すると考えられるオランダ側商品を表3にまとめて掲げておく。

第3章 安政3年(1856)の反物切本帳について

オランダ船の輸入品は、各種の手続きを経た後、日本側の役人である目利によって鑑定・評価され、国内市場にもたらされた。輸入反物に関しては、反物目利と呼ばれる役人によってその職務が果たされた。この反物目利および五ヶ所商人によって輸入反物の裂を貼り込んだ「反物切本帳」(以下「切本帳」と略記する)と称する史料が作成されている。本史料は、端切れではあるが、近世の輸入反物の実物を確認できる貴重な史料といえる。⁽¹⁶⁾ 管見の限り現存する安政3年のオランダ船輸入反物に関する切本帳としては、次のものを挙げることができる。

- ・ A「辰紅毛船式艘本方端物切本帳」(京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵)
- ・ B「辰紅毛船持渡端物切本帳」(東京大学史料編纂所所蔵)
- ・ C「辰紅毛船本方脇荷切本帳」(長崎歴史文化博物館所蔵)
- ・ a「辰紅毛船式艘脇荷切本」(鶴見大学図書館所蔵)
- ・ b「辰紅毛船脇荷端物切本帳」(東京大学史料編纂所所蔵)

上記史料の内、A a B bは反物目利が作成した切本帳である。反物目利によって作成された「切本帳」は、輸入反物の荷改めの際に、後の覚えとして作成されたものであり、それは、まず、「直組」すなわち価格評価のためであり、その他、商人見せ、荷渡し等の際に現物と照合するためのものであったと考えられる。また、「切本帳」の中には、裂の剥ぎ取られた部分に「注文帳之節取之」と記されているものがあり、

注文見本としても「切本帳」の裂が使用されたことがわかる。さらに、「切本帳」はその残存形態からして、後年の参考として作成・保管する意味合いもあったと推測される。⁽¹⁷⁾

切本帳A(図1)は、安政3年8月、反物目利の篠崎⁽¹⁸⁾によって作成された、オランダ船本方荷物として輸入された反物の切本帳である。表紙に「品代切無、当年分脇荷与銘代ル」とあるが、これは以前「品代」名目として取引されていた反物類はなくなり、それに代わって、安政3年より脇荷物として上記の反物類が取引されるようになったことを意味する。なお、表2でわかるように「品代」名目の反物はなくなったが、「品代」名目の取引がなくなったわけではない。

本帳には表4の切本帳Aに示した品名と枚数の裂が貼付されている。後述の切本帳B・Cとの相違点として(11)(12)(14)(15)の反物および反物名がないが、この点については未詳である。

切本帳a(図2)は、安政3年8月、反物目利の芦塚⁽¹⁹⁾によって作成された、オランダ船脇荷物としての反物の切本帳である。表紙に「式冊之内」とあるが、もう一冊は本方荷物としての反物の切本帳であったと考えられる。本帳には表5の切本帳aに示した品名と枚数の裂が貼付されている。しかし、後述する切本帳b・Cとの照合より「尺長上更紗」「い尺長皿紗」「ろ尺長更紗」「は尺長更紗」「に尺長皿紗」「ほ尺長更紗」には、品名とは違う更紗裂が貼付されているので注記しておきたい。

切本帳B(図3)は、安政3年8月、「端物目利頭取・同助・端物目利」によって作成された、オランダ船本方荷物としての反物の切本帳である。

切本帳b(図4)は、安政3年9月、「端物目利頭取・同助・端物目利」によって作成された、オランダ船脇荷物としての反物の切本帳である。

切本帳B・bには表4・5の切本帳Bおよび切本帳b

表2 安政3年(1856)オランダ船2艘(Resident van Son, Valparaiso)協荷物の取引

Kambang goederen		Hoeveelheid	商 品
Goederen			
			辰紅毛船脇荷
<1>	gekleurde flesschen	18 stuks	色硝子切子銘酒瓶
<2>	likeur karaffen 1 ^{ste} soort	12 stuks	壺番切子銘酒瓶
<3>	likeur karaffen 2 ^{de} soort	12 stuks	式番切子銘酒瓶
<4>	likeur karaffen 3 ^{de} soort	11 stuks	三番切子銘酒瓶
<5>	likeur karaffen 4 ^{de} soort	24 stuks	四番切子銘酒瓶
<6>	gekleurde bierglazen	18 stuks	色硝子切子水呑
<7>			金縁繪入水呑
<8>	likeur flesschen 1 ^{ste} soort	80 stuks	壺番金縁金絵角瓶
<9>	likeur flesschen 2 ^{de} soort	79 stuks	式番金縁金絵角瓶
<10>	glazen □ v. 1 ^{ste} soort	810 stuks	壺番角臺こつふ
<11>	glazen □ v. 2 ^{de} soort	599 stuks	式番角臺こつふ
<12>	glazen □ v. 3 ^{de} soort	203 stuks	三番角臺こつふ
<13>	glazen ○ v. 1 ^{ste} soort	314 stuks	壺番臺こつふ
<14>	glazen ○ v. 2 ^{de} soort	194 stuks	式番臺こつふ
<15>	glazen ○ v. 3 ^{de} soort	606 stuks	三番臺こつふ
<16>	glazen ○ v. 4 ^{de} soort	86 stuks	四番臺こつふ
<17>	□ stopflesschen 1 ^{ste} soort	214 stuks	壺番角形薬瓶
<18>	□ stopflesschen 2 ^{de} soort	464 stuks	式番角形薬瓶
<19>	□ stopflesschen 3 ^{de} soort	246 stuks	三番角形薬瓶
<20>	□ stopflesschen 4 ^{de} soort	197 stuks	四番角形薬瓶
<21>	□ stopflesschen 5 ^{de} soort	127 stuks	五番角形薬瓶
<22>	□ stopflesschen 6 ^{de} soort	77 stuks	六番角形薬瓶
<23>	○ stopflesschen 1 ^{ste} soort	193 stuks	壺番無地薬瓶
<24>	○ stopflesschen 2 ^{de} soort	5 stuks	式番無地薬瓶
<25>	○ stopflesschen 3 ^{de} soort	77 stuks	三番無地薬瓶
<26>	○ stopflesschen 4 ^{de} soort	100 stuks	四番無地薬瓶
<27>	○ stopflesschen 5 ^{de} soort	97 stuks	五番無地薬瓶
<28>	○ stopflesschen 6 ^{de} soort	175 stuks	六番無地薬瓶
<29>	○ stopflesschen 7 ^{de} soort	189 stuks	七番無地薬瓶
<30>	○ stopflesschen 8 ^{ste} soort	195 stuks	八番無地薬瓶
<31>	○ stopflesschen 9 ^{de} soort	88 stuks	九番無地薬瓶
<32>	porceleine broodmanden	2 stuks	壺番白焼金縁金絵長鉢
<33>	*	*	式番白焼金縁金絵長鉢
<34>	*	*	三番白焼金縁金絵長鉢
<35>	*	*	壺番白焼金縁繪入長鉢
<36>	*	*	式番白焼金縁繪入長鉢
<37>	*	*	三番白焼金縁繪入長鉢
<38>	*	*	四番白焼金縁繪入長鉢
<39>	*	*	五番白焼金縁繪入長鉢
<40>	*	*	壺番白焼金縁繪入皿付ふた物
<41>	*	*	式番白焼金縁繪入皿付ふた物
<42>	*	*	白焼金縁繪入七寸鉢
<43>	*	*	白焼金縁繪入四寸皿
<44>	*	*	壺番白焼金縁金繪鉢付茶器
<45>	*	*	式番白焼金縁金繪鉢付茶器
<46>	*	*	壺番白焼金縁金繪仕切菓子入
<47>	*	*	式番白焼金縁金繪仕切菓子入

落札帳			
数	量	落札価格	落札商人
		落札価格 (オランダ [°] 史料) (単位: テール)	
18	138 匁	(13.8 / stuk)	原田
12	45 匁 3 分	(4.53 / stuk)	松田ヤ
12	41 匁 5 分	(4.15 / stuk)	村仁
12	33 匁	(3.3 / stuk)	村仁
14	43 匁 2 分	(4.32 / stuk)	玉津ヤ
16	46 匁	(78.78 / 18 stuks)	玉津ヤ
2 ツ	25 匁 9 分		吉十
60	14 匁	(1.4 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
59	12 匁	(1.2 / stuk)	松田ヤ
618	5 匁 8 分 9 厘	(0.589 / stuk)	ふしヤ
400	6 匁 5 分 8 厘	(0.658 / stuk)	松田ヤ
154	7 匁	(0.7 / stuk)	松田ヤ
314	5 匁 2 分 3 厘	(0.523 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
100	6 匁 4 分 2 厘	(0.642 / stuk)	玉津ヤ
306 ツ	6 匁 9 分	(0.69 / stuk)	豊嶋ヤ
87	7 匁 4 分 8 厘	(0.748 / stuk)	玉津ヤ
190	9 匁 1 分	(0.91 / stuk)	豊安
475	8 匁 6 分	(0.86 / stuk)	村仁
220	6 匁 3 分	(0.63 / stuk)	豊嶋ヤ
200	5 匁 3 分	(0.53 / stuk)	豊嶋ヤ
105 ツ	4 匁 5 分 8 厘	(0.458 / stuk)	豊嶋ヤ
43	4 匁 2 分 7 厘	(0.427 / stuk)	豊嶋ヤ
188	14 匁 3 分 6 厘	(1.436 / stuk)	玉津ヤ
5 ツ	46 匁 8 分	(4.68 / 5 stuks)	ひしヤ
80	5 匁 7 分	(0.57 / stuk)	松田ヤ
100	4 匁 7 分	(0.47 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
98	4 匁 2 分 1 厘	(0.421 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
177	4 匁 1 分 3 厘	(0.413 / stuk)	松田ヤ
192	3 匁 1 分 6 厘	(0.316 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
196	3 匁	(0.3 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
89	2 匁 7 分 9 厘	(0.279 / stuk)	ふしヤ
2 枚	110 匁	(11.0 / stuk)	松田ヤ
4 枚	65 匁 2 分	*	松田ヤ
4 枚	85 匁	*	松田ヤ
2 枚	65 匁 7 分	*	松田ヤ
2 枚	54 匁	*	松田ヤ
4 枚	45 匁	*	ふしヤ
4 枚	25 匁 9 分	*	ふしヤ
1 枚	43 匁 8 分	*	松田ヤ
2 揃	115 匁	*	福井ヤ
2 揃	40 匁	*	天さ
12 枚	12 匁 1 分	*	松田ヤ
56 枚	5 匁 5 分 1 厘	*	松田ヤ
1 揃	450 匁	*	松田ヤ・天さ
1 揃	206 匁	*	松田ヤ
4 ツ	92 匁 8 分	*	松田ヤ
4 ツ	72 匁	*	三よしヤ

	Kambang goederen		商 品
	Goederen	Hoeveelheid	
<48>	*	*	白焼金縁繪入仕切菓子入
<49>	*	*	白焼金縁仕切菓子入
<50>	gekleurde bloemvazen	12 stuks	老番白焼金縁繪入花生 式番白焼金縁繪入花生
<51>			
<52>	*	*	三番白焼金縁繪入花生
<53>	*	*	老番白焼金縁繪入卓下花生
<54>	*	*	式番白焼金縁繪入卓下花生
<55>	*	*	三番白焼金縁繪入卓下花生
<56>	*	*	白焼金縁臺付菓子入
<57>	dejeuner 1. ^{ste} soort	1 stel	白焼金縁繪入茶器
<58>	dejeuner 2. ^{de} soort	1 stel	
<59>	*	*	白焼金縁繪入小形茶器
<60>	*	*	白焼金縁金繪皿付茶器
<61>	*	*	白焼金縁金繪小形茶器
<62>	*	*	白焼金縁小形茶器
<63>	*	*	白焼金縁小形卓子道具
<64>	*	*	老番白焼卓子道具
<65>	*	*	式番白焼卓子道具
<66>	borden	84 stuks	白焼八寸鉢
<67>	soepborden	36 stuks	
<68>	kleine borden	36 stuks	
<69>	*	*	白焼七寸鉢
<70>	*	*	白焼金縁四寸皿
<71>	*	*	老番焼物器
<72>	*	*	式番焼物器
<73>	*	*	白焼金縁置物
<74>	*	*	老番白焼繪具摺
<75>	*	*	式番白焼繪具摺
<76>	*	*	三番白焼繪具摺
<77>	*	*	四番白焼繪具摺
<78>	glasruiten 1. ^{ste} soort	446 stuks	五番白焼繪具摺
<79>	glasruiten 2. ^{de} soort	188 stuks	老番硝子板
<80>	glasruiten 3. ^{de} soort	250 stuks	式番硝子板
<81>	glasruiten 4. ^{de} soort	446 stuks	三番硝子板
<82>	glasruiten gebroken 1. ^{ste} soort	222 katties	四番硝子板
<83>	glasruiten gebroken 2. ^{de} soort	270 katties	老番屑硝子板
<84>	blik, dubbeld	790 bladen	式番屑硝子板
<85>	blik, enkeld	2,000 bladen	老番フリツキ延板
<86>	brillen	30 stuks	式番フリツキ延板
<87>	chirurgicale instrumenten	5 stellen	鼻 目 鏡
<88>	horologie / gouden /	1 stuk	外 科 道 具
<89>	(barometer)	—	鎖リ付袂時計
<90>	(thermometer)	—	晴雨昇降
<91>	botte knippen	345 stuks	寒暖晴雨昇降
<92>	(brandspuit met toebehooren, kleinste soort)	—	鼠 取
<93>	blikken trommels	13 stuks	竜 吐 水
<94>	blik uit pak kisten	162 katties	老番フリツキ箱
<95>	acetas plumbi	24 flesschen van 1 pond	式番フリツキ箱 アセタスフ°リュムヒイ

落札帳			
数	量	落札価格	落札商人
4ツ		73 匁 1 分	* 松田ヤ
3ツ		46 匁	* エサキ
8ツ		30 匁	} (28.8 / 12 stuks)
4ツ		24 匁	
24		18 匁	* 松田ヤ
2ツ		61 匁	* 松田ヤ
2ツ		17 匁 8 分	* 天さ
8ツ		16 匁 3 分	* 三よしヤ
8ツ		30 匁	* ふしヤ
1揃		265 匁	(26.5 / 2 stellen) 藤ヤ
4揃		45 匁 9 分	* てつヤ
1揃		40 匁	* 藤ヤ
1揃		126 匁	* 松田ヤ
1揃		63 匁 9 分 (62 匁 9 分)	* 松田ヤ
1揃		139 匁	* 豊嶋ヤ (豊安)
1揃		332 匁	* エサキ
1揃		374 匁	* 三吉ヤ
80 枚		11 匁 5 分	} (1.15 / stuk) (1.15 / stuk)
26 枚		8 匁 1 分	(0.81 / stuk) 春日ヤ
24 枚		5 匁 1 分	* 柁・松田ヤ
20 品		518 匁	* 三吉ヤ
16 品		253 匁	* 松田ヤ
2ツ		21 匁 9 分	* ふしヤ
1ツ		30 匁	* 西嶋ヤ (西善)
3ツ		21 匁 9 分	* 西嶋ヤ (西善)
2ツ		21 匁	* 豊嶋ヤ (豊安)
4ツ		20 匁 8 分	* 豊嶋ヤ (豊安)
4ツ		20 匁 1 分	* 村仁
500 枚		27 匁 2 分	(2.72 / stuk) 松田ヤ
200 枚		10 匁 2 分	(1.02 / stuk) 松田ヤ
300 枚		9 匁 8 分 4 厘	(0.984 / stuk) 松田ヤ
500 枚		7 匁 1 分 9 厘	(0.719 / stuk) ふしヤ
150 斤		8 匁	(0.8 / kattie) 松のヤ
150 斤		7 匁	(0.7 / kattie) 松のヤ
290 枚		6 匁 4 分 1 厘	(0.641 / blad) ふしヤ
2,000 枚		3 匁 7 分 8 厘	(0.378 / blad) 松田ヤ
29		36 匁 7 分	(3.67 / stuk) 玉津ヤ
5揃		245 匁	(24.5 / stel) ひしヤ
1揃		1貫 130 匁	(113.0 / stuk) ふしヤ
1ツ		800 匁	— 天さ
1ツ		900 匁	— 豊嶋ヤ (豊安)
340		8 匁 8 分 9 厘	(0.889 / stuk) 村仁
1揃		3貫 330 匁	— 吉田ヤ
13		407 匁	(40.7 / 13 stuks) 藤ヤ
121 斤		5 匁 7 分 2 厘	(0.572 / kattie) てつヤ
24 瓶		28 匁 7 分	(2.87 / fleschje van 1 pond) 松のヤ

	Kambang goederen		商 品
	Goederen	Hoeveelheid	
<96>	borax	30 fleschjes van 1/2 pond	ボ ー ラ キ ス
<97>	braak wijnsteen	19 fleschjes van 1/4 pond	フ ^ラ クウエインステーン
<98>	sal-ammoniac	22 flesschen van 2 pond	サルアルモニヤシ
<99>	extract cicutae	5 fleschjes van 1/2 pond	エキスタラクトシキユータ
<100>	extract hijosciamus	30 fleschjes van 1/2 pond	エキスタラクトヒヨシヤムス
<101>	verdikte ossengal	30 fleschjes van 1/2 pond	ヲ ス セ ン カ ル
<102>	lapis infernalis	1 fleschje van 3 once	ラ ^ビ スインフリナリス
<103>	semencinae (wormenkruid)	84 katties	セ メ ン シ ー ナ
<104>	Venetiaansche theriac	215 busjes	テ リ ヤ ア カ
<105>	Berlijnsch blaauw	99 katties	紺 青
<106>	kreeftsoogen	39.1 katties	ヲ ク リ カ ン キ リ
<107>	jalappe	44.7 katties	ヤ ラ ツ パ
<108>	radix columbo	41 katties	コ ロ ン ボ ー
<109>	cremortart	41 katties	ケレムルタルタリー
<110>	IJslandsche mos	240 katties	エイスランスマス
<111>	pokhoutzaagsel	950 katties	細末ポツクホウト
<112>	herba hijosciamus	17 katties	ヒ ヨ シ ヤ ム ス
<113>	kamillen bloemen	227 katties	カ ミ ル レ
<114>	senna bladen	58 katties	セ ン ナ
<115>	gentiaan wortel	55.5 katties	ケンチヤンウヲルトル
<116>	herba digitalis	50.25 katties	ジ キ タ ー リ ス
<117>	arnica bloemen	36 katties	アルニカブルーム
<118>	magnesia	83 katties	マ ク 子 シ ヤ
<119>	cortex chinae	317 katties	キ ナ キ ナ
<120>	lijnzaad	62 katties	亜 麻 仁
<121>	zee ajuin	163 katties	セ ア ユ イン
<122>	Kaapsche aloë	41 katties	芦 薈
<123>	zeep / 80 kistjes /	815 katties	サ ポ ン
<124>	bruinsteen	160 katties	ブロインステーン
<125>	Hoffmanns droppels	49.5 fleschjes van 1 pond	ホ フ マ ン
<126>	spiritus nitri daleis	50 fleschjes van 1 pond	スフ ^リ テスニツトルシス
<127>	spiritus sal-ammoniac	20 fleschjes van 1/2 pond	サルアルモニヤシ精氣
<128>	koffij in blikken	164 blik int 1/5 Jav. picol	い コ ー ヒ ー 豆
<129>	koffij in zakken	18 Jav. picols	ろ コ ー ヒ ー 豆
<130>	saffraan	82 katties	サ フ ラ ン
<131>	drop	650 katties	痰 切
<132>	terpentijn olie	80 flesschen	テレメンテイン油
<133>	balsem copaivae	25 flesschen	バルサムコツハイハ
<134>	kajapoetie olie	44 flesschen	カヤフーテ油
<135>	Genua olie	120 flesschen	ホルトカル油
<136>	buffel hoeven / witte /	225 katties	水 牛 爪

落札帳			
数 量	落札価格	落札価格 (オランダ [°] 史料) (単位: テール)	落札商人
30 瓶	28 匁 9 分	(2.89 / fleschje van 1/2 pond)	永井ヤ
17 瓶	43 匁 9 分	(4.39 / fleschje van 1/4 pond)	てつヤ
20 瓶	171 匁 9 分	(17.19 / fleschje van 2 pond)	竹のヤ・天さ
4 瓶	252 匁	(25.2 / fleschje van 1/2 pond)	立見ヤ
15 瓶	330 匁	(33.0 / fleschje van 1/2 pond)	松のヤ
15 瓶	118 匁	(11.8 / fleschje van 1/2 pond)	藤ヤ
1 瓶	142 匁	(14.2 / fleschje van 3 once)	松のヤ
42 斤 [42 斤 25 瓶]	3 貫 50 匁	(305.0 / kattie)	松田ヤ [藤田ヤ]・の田ヤ
191 罐	6 匁 2 分 9 厘	(0.629 / busje)	永井ヤ
97 斤	86 匁 4 分	(8.64 / kattie)	吉更ヤ
41 斤	300 匁	(30.0 / kattie)	てつヤ
41 斤	132 匁 8 分	(13.28 / kattie)	てつヤ
41 斤	140 匁 9 分	(14.09 / kattie)	永井ヤ
40 斤	136 匁 9 分	(13.69 / kattie)	てつヤ
251 斤	22 匁	(2.2 / kattie)	てつヤ
1,060 斤	4 匁 5 分 3 厘	(0.453 / kattie)	永井ヤ
21 斤	232 匁	(23.2 / kattie)	松田ヤ [藤田ヤ]
190 斤	26 匁 1 分	(2.61 / kattie)	福井ヤ
65 斤	145 匁 9 分	(14.59 / kattie)	立見ヤ
62 斤	13 匁 6 分	(1.36 / kattie)	松のヤ
41 斤	393 匁 8 分	(39.38 / kattie)	立見ヤ
41 斤	38 匁 9 分	(3.89 / kattie)	立見ヤ
84 斤	42 匁 6 分	(4.16 / kattie)	吉田ヤ
165 斤	238 匁 6 分	(23.86 / kattie)	松のヤ
63 斤	8 匁 8 分 8 厘	(0.888 / kattie)	てつヤ
165 斤	55 匁 8 分	(5.58 / kattie)	永見
42 斤	86 匁 5 分	(8.65 / kattie)	松のヤ
650 斤	18 匁 9 分 3 厘	(1.893 / kattie)	立見ヤ
160 斤	13 匁 9 分	(1.39 / kattie)	永井ヤ
45 瓶	89 匁	(8.9 / fleschje van 1 pond)	てつヤ
50 瓶	64 匁	(6.4 / fleschje van 1 pond)	川内ヤ
20 瓶	68 匁 5 分	(6.85 / fleschje van 1/2 pond)	西嶋ヤ [西善]
160 罐	32 匁 9 分	(3.29 / blik int 1/5 Jav. picol)	藤ヤ
25 袋	66 匁	(6.6 / Jav. picol)	金沢ヤ
54 斤 [54 斤 65 瓶]	2 貫目	(200.0 / kattie)	松本ヤ
331 斤	21 匁 2 分	(2.12 / kattie)	松田ヤ
80 ふらすこ	20 匁 4 分	(2.04 / flesch)	松田ヤ
10 ふらすこ	126 匁	(12.6 / flesch)	てつヤ
24 ふらすこ	91 匁 5 分	(9.15 / flesch)	松のヤ
120 ふらすこ	39 匁	(3.9 / flesch)	てつヤ
200 斤	15 匁 9 分 1 厘	(1.591 / kattie)	川内ヤ

Kambang goederen		
Goederen	Hoeveelheid	商 品
<137> bindrotting	40,325 katties	藤
<138> zink uit eene pak kist	35 katties	荷 包 針 鉞
<139> flanel, lang 76 1/2 el	1 stuk	い類違薄手嶋羅紗
<140> flanel, lang 83 el	1 stuk	ろ類違薄手嶋羅紗
<141> flanel, lang 77 el	1 stuk	は類違薄手縞羅紗
<142> flanel, lang 52 3/4 el	1 stuk	に類違薄手縞羅紗
<143> geenlumineerde chitsen	200 stuks	尺 長 上 更 紗
<144> foulard chitsen fantaisie	200 stuks	い 尺 長 更 紗
<145> zwart op rood gedrukte chitsen	200 stuks	ろ 尺 長 更 紗
<146> veel kleurige chitsen	200 stuks	は 尺 長 更 紗
<147> leminios, bruine	100 stuks	に 尺 長 更 紗
<148> leminios blaauwe	49 stuks	ほ 尺 長 更 紗
<149> leminios drie kleurige	100 stuks	へ 尺 長 更 紗
<150> meubel chitsen	100 stuks	と 尺 長 更 紗
<151> mignonette rose en paarsche	200 stuks	ち 尺 長 更 紗
<152> donker paarsche chitsen	200 stuks	り 尺 長 更 紗
<153> wit geruite chitsen	100 stuks	ぬ 尺 長 更 紗
<154> cambrics, Adrianopel rood	100 stuks	幅 廣 赤 紋 金 巾
<155> effen rood katoen 7/4	100 stuks	い 幅 廣 赤 金 巾
<156> effen rood katoen 6/4	100 stuks	ろ 幅 廣 赤 金 巾
<157> effen rood katoen 5/4	100 stuks	は 幅 廣 赤 金 巾
<158> wit, katoen	49 stuks	幅 廣 白 金 巾
<159> witte jeans	100 stuks	幅 廣 白 綾 金 巾
<160> ruwe jeans	100 stuks	幅 廣 白 綾 木 綿
<161> taffachelassen 6/4	164 1/2 stuks	い類違尺長奥縞
<162> taffachelassen 5/4	240 stuks	ろ類違尺長奥縞
<163> cotonnetten 6/4	400 stuks	い 又 布 嶋
<164> cotonnetten 5/4	200 stuks	ろ 又 布 嶋
<165> blaauw gestreepte nikanias	1,000 stuks	幅 廣 嶋 木 綿
<166> aard en hemelglobe met toebehooren	1 stel	辰紅毛船追脇荷 天 地 球
<167> avondmicroscoop / defect /	1 stuk	ミコラスコーフ
<168> luchtpomp / defect /	1 stuk	リクトポンプ
<169> [Arabische gom]	—	辰紅毛船品代リ アラヒヤコム
<170> [ultra marin]	—	郡 青
<171> [eenhoorn]	—	ウニカール
<172> —	—	[針 丹]

出典・Kambang goederen は、Bijlagen Kambang rekening Japan 1856. MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910,I:No.283)。(Tōdai-Shiryō Microfilm: 6998-1-135-32)。
 ・落札帳は、「[落札帳] [安政三年] 辰一番割至七番割」(杏雨書屋所蔵村上家文書)。

落札帳			
数量	落札価格	落札価格 (オランダ [*] 史料) (単位: テール)	落札商人
40,700 斤[40,700 斤 1,742 把]	5 匁 8 分 4 毛	(0.5804 / kattie)	永見
35 斤	14 匁 1 分	(1.41 / kattie)	川内ヤ
1 反	1 貫 89 匁	(108.9 / stuk)	松のヤ
1 反	1 貫 200 匁	(120.0 / stuk)	ひしヤ
1 反 [1 反 但 2 切]	1 貫 100 匁	(110.0 / stuk)	長ヲカ・豊嶋ヤ (豊安)
1 反	958 匁	(95.8 / stuk)	竹のヤ
200 反	352 匁 1 分	(35.21 / stuk)	吉更ヤ
198 反	296 匁	(29.6 / stuk)	竹のヤ
200 反	184 匁	(18.4 / stuk)	村仁
200 反	170 匁 9 分	(17.09 / stuk)	松のヤ
79 反	248 匁	(24.8 / stuk)	ひしヤ
49 反	226 匁	(22.6 / stuk)	玉津ヤ
96 反	251 匁	(25.1 / stuk)	ふしヤ
100 反	180 匁	(18.0 / stuk)	福井ヤ
200 反	165 匁	(16.5 / stuk)	ひしヤ
200 反	130 匁	(13.0 / stuk)	永見
100 端	102 匁 1 分	(10.21 / stuk)	吉更ヤ
94 反	323 匁 9 分	(32.39 / stuk)	永井ヤ
100 反	359 匁 7 分	(35.97 / stuk)	竹のヤ
78 反	340 匁	(34.0 / stuk)	ひしヤ
100 反	300 匁	(30.0 / stuk)	ひしヤ
37 反	268 匁	(26.8 / stuk)	福井ヤ
95 反	169 匁	(16.9 / stuk)	竹のヤ
100 反	191 匁	(19.1 / stuk)	ふしヤ
165 反	176 匁	(17.6 / stuk)	永見
218 反 [216 反]	154 匁 5 分	(15.45 / stuk)	村仁
376 反	158 匁	(15.8 / stuk)	布ヤ
200 反	138 匁	(13.8 / stuk)	豊嶋ヤ (豊安)
1,000 端	35 匁 7 分 3 厘	(3.573 / stuk)	村仁
1 揃	1 貫 250 匁	(125.0 / stel)	吉田ヤ
1 ツ	750 匁	(75.0 / stuk)	ひしヤ
1 揃 [1 ツ]	1 貫 500 匁	(150.0 / stuk)	天サ
500 斤	36 匁 1 分	—	松田ヤ
48 斤	81 匁 9 分	—	永井ヤ
124 斤	980 匁 9 分	—	竹のヤ・天さ
[35 斤]	—	—	—

- ・ () 内は、Aantooning der in het jaar 1856 voor den kambang handel naar Japan te verzenden goederen. MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910, I : No.31). (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-125-1)。
- ・ [] 内は、Kambang handel. Verkooprekening van onder's hands verkochte goederen. Bijlagen Kambang rekening Japan 1856. MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910, I:No.283). (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-135-32)。
- ・ () 内は、「[辰紅毛脇荷見帳] [安政三辰四番割]」(杏雨書屋所蔵村上家文書)。

表3 表2の*印の商品名と数量、落札価額

Goederen	Hoeveelheid	落札価額(テール)
dejeuners, compleet	2 stuks	510.74
schaaltjes, gouden rand	8 stuks	
bordjes, kleine	120 stuks	
gebak manden	3 stuks	
kinder dejeuner servies	8 stuks	
servies, groot / thee / broodbakken	1 stuk	
zuurschaaltjes	6 stuks	
vierkante schaaltes	16 stuks	
bekers in soorten	6 stuks	
witte mortieren in soorten	40 stuks	
corbeilles	16 stuks	
vogels	8 stuks	
	2 stuks	
verschillende schaaltes	20 stuks	37.4
zuurschaaltjes	8 stuks	
saus kommen	4 stuks	
gekleurde vrucht schalen	32 stuks	197.7

に示した品名と枚数の裂が貼付されている。この切本帳B・bは、現在、東京大学史料編纂所の遣米副使村垣淡路守用人野々村忠実関係史料の中に所蔵されている史料である。安政3年野々村市之進忠実は、長崎奉行川村対馬守修就（安政2年5月から同4年1月まで在任）の家臣として勤務していた。⁽²⁰⁾ このことから考えて、この2冊の切本帳は「端物目利頭取・同助・端物目利」より長崎奉行所、もしくは野々村個人に贈られたものではないかと推測される。上述の如く、切本帳は貿易取引において活用されるものではあるが、この2冊は、見本帳としての意味合いが強いものといえよう。

切本帳C（図5）は商人が作成した切本帳である。商人作成の「切本帳」は「商人荷見せ」以前から作成されはじめ、入札・落札・荷渡を通して使用され取引の過程ごとに書き加えられていった、商人側の取引のために作成された原史料といえることができる。また、その残存形態から後年の取引の参考のために商人等によって保管されてきたものと推測される。⁽²¹⁾

切本帳Cは、安政3年、オランダ船本方荷物・脇荷物として輸入された反物の切本帳である。この切本帳は、「辰四五番割」すなわち、安政3年の4回目（脇荷物の取引）と5回目（本方荷物の取引）に長崎会所において、商人に対しておこなわれた入札取引にかけられた反物類を貼り込んだものである。この切本帳は「辰四五番割」に加わった商人によって作成されたものであり、表紙左下に店印が記されていたが、現在は墨で塗りつぶされている。この切本帳により取引名目・反物名・反数・落札価格・落札商人名を知ることができる。先に紹介した「〔落札帳〕」とこの「切本帳」との照合の結果、「切本帳」の入札商人「此」に相当する部分がすべて「松田ヤ」であることよりこの「切本

帳」の作成者は「松田ヤ」であることが判明する。「松田ヤ」の店印が~~◆~~であることより先述した表紙の墨で塗りつぶされている部分が解明される。なお、本方・脇荷物の取引が上述したように安政3年10月におこなわれたことより、この「切本帳」の表紙には「辰十月拂」と記されている。

この切本帳Cには表4・5の切本帳Cに示した品名と枚数の裂が貼付されている。

以上、5冊の内、本方荷物としての反物を貼付する切本帳A・B・C、脇荷物としての反物を貼付する切本帳a・b・Cのそれぞれの反物名を照合したものが前掲表4・5である。なお、頭注の番号は表1・2の品目と照合している。⁽²²⁾

第4章 本方荷物について

次に、日蘭両史料の照合によって得られた安政3年の本方荷物の日蘭商品名より、各商品が一体いかなる品物であったのか考察を加えておきたい。以下、商品番号は、表1に従って記したものであり、品目名は日本側商品名にオランダ側商品名を突き合わせる形で表記していく。

(1) 黒大羅紗 → laken zwart

(2) 白大羅紗、(3) 藍鼠色大羅紗、(4) 花色大羅紗、

(5) 茶色大羅紗、(6) 霜降大羅紗 → laken overige kleuren (wit, aschgrauw, lichtblauw, groen olijf, grijs)

羅紗はポルトガル語のraxeの転じた語である。⁽²³⁾ lakenは「ラシャ」の意。近世初頭にポルトガル船が持ち渡ったraxeをラシャと呼んだのがはじまりで、後にオランダ船が持ち渡ったlakenを今までどおりにラシャと呼んだのであろう。羊毛で地が厚く、織（平織）の組織がわからないほど毛羽立たせた毛織物である。原産地はヨーロッパ。オランダ産であろう。

(7) 黒ふらた、(8) 藍鼠色ふらた、(9) 茶色ふらた → casimier diverse kleuren (zwart, aschgrauw, groen olijf)

casimierは本来、インドのカシミール地方およびチベット原産のカシミア山羊の軟毛を用いて綾織に織った織物である。刺繍や縫取りを施して精妙な伝統的文様を表す。後にはカシミア山羊の毛と羊毛の混紡糸を用いても織られるようになった。⁽²⁴⁾ 本来「ふらた」の原語はbourat。近世初中期に輸入された「ふらた」は、帳簿上、このbouratが記されている。ラテン語のburra（毛深い粗毛の動物の毛皮の意）が語源のようである。⁽²⁵⁾ 本品は綾織の羊毛織物である。原産地はヨーロッパ。オランダ産であろう。

(10) 緋呉羅服連 → grein schaaierood

(11) 藍海松茶色呉羅服連、(12) 茶色呉羅服連、(13)

一、(14) 一、(15) 一 → grein overige kleuren (groen olijf, olijf, wit, zwart, lichtblauw)

greinは字義上は「表面のざらついた」という意。もとはヤギや駱駝の毛で織ったが、後に羊毛や生糸をまぜて織るようになった。⁽²⁶⁾ 本品は羊毛だけで織った「呉羅服連」。経緯の糸込みが22本前後(1cm間)のかなり均一な平織の毛織物である。「呉羅服連」はオランダ品目名grofgreinの音訳である。grofは「粗い」という意。原産地はヨーロッパ。オランダ産であろう。なお、(13) (14) (15) は献上・進物品としてすべて使用されたため落札帳には記されていない。

(16) 緋テレフ、(17) 桔梗色テレフ、(18) 藍海松茶色テレフ → gedrukte trijp diverse kleuren (schaairood, violet, olijfsensaai)

gedruktは「捺染した」、trijpはモケット(ピロード組織の毛羽のある織物)のこと。本品は綿ピロードの一種であり、捺染で文様を施したものである。原産地はヨーロッパと考えられる。

(19) 尺長赤金巾 → roode hamans

roodeは「赤い」、hamansは堅い厚地の金巾のこと。⁽²⁷⁾ 金巾はポルトガル語でcanequimの転じた語。⁽²⁸⁾ なお、日本側品目名の「尺長」とは定尺より長いことを意味する。本品は赤地の緻密な平織金巾。ヨーロッパで加工されて持ち渡られたものと考えられる。

(20) 上奥嶋 → taffachelassen verbeterde

(21) 壺番新織奥嶋 → taffachelassen extra fijn 1^o soort

(22) 式番新織奥嶋 → taffachelassen extra fijn 2^o soort

taffachelas (-sen) は縦縞の絹織物、交織または綿織物といわれるが、19世紀におけるtaffachelas (-sen) の表記は縞柄の綿織物と考えられる。奥嶋の「奥」とは日本から遠く離れた漠然とインドあたりを指すものと考えられる。嶋は現在の「縞」を意味するが、本来は海外からの持ち渡り(島渡り)の反物に縞柄のものが多かったことより、嶋が現在の縞を意味するようになった。従って、奥嶋の意味はインドあたりから持ち渡られた今でいう縞文様の織物ということになる。

「新織」とは従来輸入されたものとは違うニュータイプの染織を意味するのであろう。また、「壺番」「式番」は品質の等級を示す。オランダ品目名の内、verbeterdeは「改良された」、extraは「特別上等の」、fijnは「すばらしい、(織り目の)細かい」の意である。

近世において、ヨーロッパ船の持ち渡る縞木綿は、本来インド産のものであり、インドのコロマンデル産である「棧留嶋」と呼ばれる染織は経糸・緯糸共に二本ずつ引き揃えの双糸を用いて平織にした縞柄の綿織

物であった。近世の日本側貿易史料では通常、この綿織物の縦縞を「奥嶋」、碁盤縞を「算崩嶋」と訳している。安政3年輸入の「奥嶋」は、綿糸が非常に細く、前述のように二本の糸を引き揃えて経緯に用いた斜子織と呼ばれるものである。このような綿糸はとうていわが国では紡出できるものではなかった。ところが、18世紀後半にはイギリスを中心としてヨーロッパでは紡績技術の飛躍的進歩によって綿業が発達し、taffachelas奥嶋の模造品が作成されるようになった。文政年間(1818~1830)には既にヨーロッパ産の奥嶋が日本に輸入されていることが判明している。安政3年輸入の奥嶋は、毛羽の立ち方とアリザリンレッドやクロムイエローのようなあざやかな色彩が用いられた派手な縞がきわだっている点などからみて、全てヨーロッパ産とみてよいであろう。⁽²⁹⁾

(23) 壺番尺長上皿紗 → Europesche sitsen 1^o soort

(24) 式番尺長上皿紗 → Europesche sitsen 2^o soort

(25) 弁柄皿紗 → Bengaalsche sitsen

(26) 皿紗 → Patna sitsen

sits (-en) は「さらさ」の意。sitsは「染め分けの、まだらの」という意味の梵語citrāに由来するとされ、綿布を花鳥・人物・幾何学文様等、種々様々な文様に染めわけたものである。

Europesche sitsenのEuropescheは「ヨーロッパ(産)の」の意。従って、ヨーロッパ産の更紗。更紗は本来インドで生まれた染織と考えられるが、その技法がヨーロッパに伝わり、そこで生まれた更紗である。このヨーロッパ更紗はインド更紗とは違ったヨーロッパ独自の意匠によってアリザリンレッドやクロムイエローなどを用いた花柄や幾何学文様等のあでやかなプリント更紗である。

Patna sitsenのPatnaとは「パトナ」のこと。パトナはベンガルに隣接するビハール州の首都。パトナで仕入れた更紗を意味する。しかし、「切本帳」に貼り込まれている「更紗」Patna sitsenは、ヨーロッパ産のプリント更紗である。これは、パトナ更紗の模造品であり、藍抜きの更紗をわざわざ真似て上質の木綿にプリントされた二色更紗である。この手のものは、文政期より輸入されはじめ、天保・弘化期には大量に輸入されていた。

Bengaalsche sitsenのBengaalscheは「ベンガル(産)の」の意。従って、ベンガル産更紗ということになるが、パトナ更紗同様「切本帳」にはベンガル更紗の模造品である二色のプリント更紗が貼り込まれている。この手のものも、天保・弘化期に大量に輸入されている。従って、安政3年の更紗は全てヨーロッパ産の更紗である。⁽³⁰⁾

(27) 壺番象牙 → olifants tanden 1^o soort



図 1 - 1, 2 「辰年紅毛船式艘本方端物切本帳」(京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵、AN.90-12)

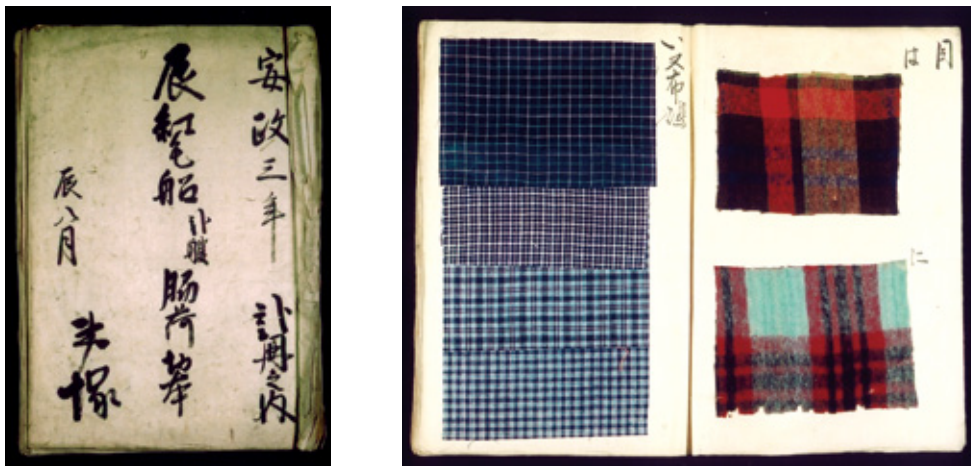


図 2 - 1, 2 「辰紅毛船式艘脇荷切本」(鶴見大学図書館所蔵)

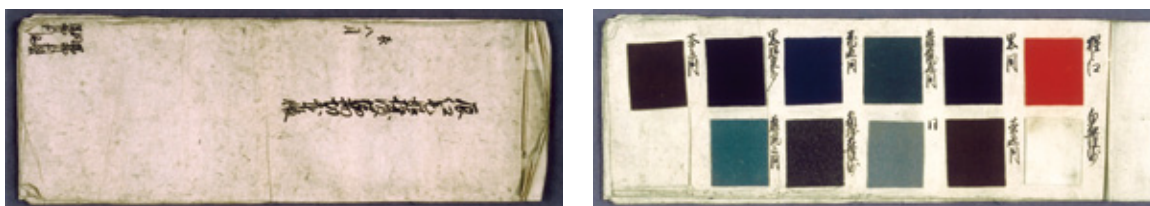


図 3 - 1, 2 「辰紅毛船持渡端物切本帳」(東京大学史料編纂所所蔵)

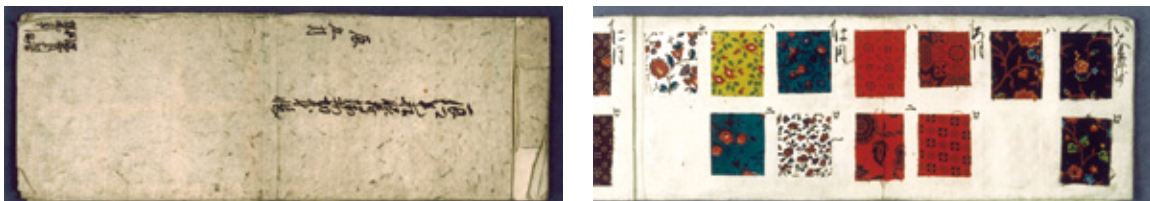


図 4 - 1, 2 「辰紅毛船脇荷端物切本帳」(東京大学史料編纂所所蔵)

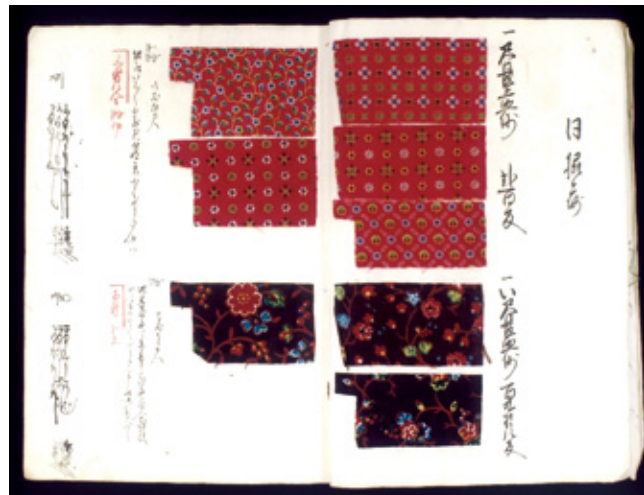
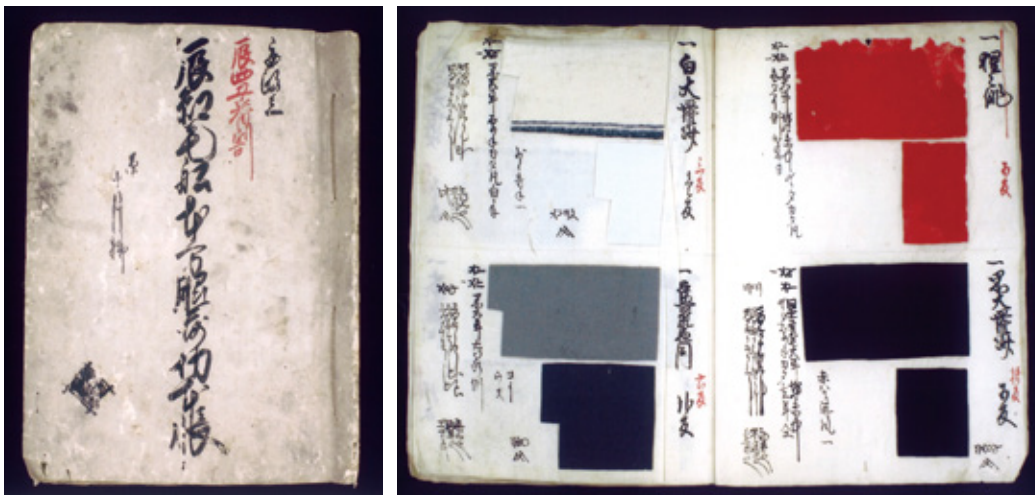


図5-1, 2, 3「辰紅毛船本方脇荷切本帳」(長崎歴史文化博物館所蔵)

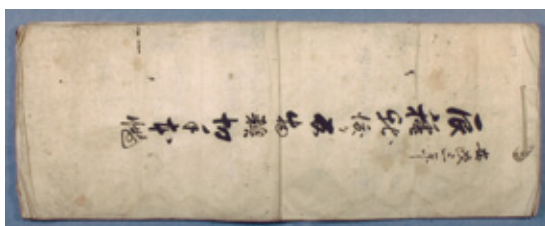


図6-1, 2, 3「辰糴新渡り反物類切手本帳」(神戸市立博物館所蔵)

表4 安政3年(1856)オランダ船2艘(Resident van Son, Valparaiso)本方荷物(反物類)

	切本帳A(8月)		切本帳B(8月)		切本帳C(10月)	
	品名	貼付枚数	品名	貼付枚数	品名	貼付枚数
(44)	猩々緋	0	猩々紅	1	猩々緋	2
(2)	白大羅紗	0	白大羅紗	1	白大羅紗	2
(1)	黒同	0	黒同	1	黒大羅紗	2
(4)	花色同	0	花色同	1	花色大羅紗	1
(3)	藍鼠色大羅紗	0	藍鼠色同	2	藍鼠色同	2
(5)	茶色同	0	茶色同	1	茶色同	3
(6)	霜降大羅紗	0	霜降大羅紗	1	霜降同	1
(7)	黒婦良多	0	黒婦良多	1	黒婦羅多	1
(9)	茶色同	0	茶色同	1	茶色同	1
(8)	藍鼠色同	0	藍鼠色同	1	藍鼠色婦良多	1
(10)	紅呉羅服連	1	紅呉羅服連	1	緋呉路服連	1
(13)	白同	1	白同	1	白同	1
(11)			藍海松茶色同	1	藍海松茶色同	1
(14)			黒同	1	黒呉路服連	2
(12)			茶色同	1	茶色同	1
(15)			花色同	1	花色同	1
(16)	紅同(=テレフ)	0	紅テレフ	1	緋テレフ	1
(17)	桔梗色テレフ	1	桔梗色同	1	桔梗色同	1
(18)	藍海松茶色テレフ	1	藍海松茶色同	1	藍海松茶色同	1
(19)	尺長赤金巾	1	尺長赤金巾	1	尺長赤金巾	3
(23)	壺番尺長上更紗	8	壺番尺長上皿紗(イ〜ハ)	6	壺番尺長上皿紗	9
(24)	式番同	3	式番同(イ・ロ)	2	式番尺長上皿紗	2
(25)	弁柄更紗	14	弁柄皿紗(イ〜リ)	13	弁柄皿紗	14
(26)	更紗	14	皿紗(イ〜ヲ)	11	皿紗	15
(20)	上奥嶋	2	上奥嶋(イ・ロ)	2	上奥島	4
(21)	壺番新織奥嶋	29	壺番新織奥嶋(イ〜ア)	36	壺番新織奥嶋	38
(22)	式番新織奥嶋	52	式番新織奥嶋(イ〜ス)	47	式番新織奥嶋	54

註・切本帳Aは、「辰年紅毛船式艘本方端物切本帳」(京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵)。
切本帳Bは、「辰紅毛船持渡端物切本帳」(東京大学史料編纂所所蔵)。
切本帳Cは、「辰紅毛船本方脇荷切本帳」(長崎歴史文化博物館所蔵)。

(28) 式番象牙 → olifants tanden 2^o soort

(29) 三番象牙 → olifants tanden 3^o soort

olifantsは「象の」、tand(-en)は「牙」の意。象牙。日本において象牙は、主に印材とされ、根付、三味線の撥、置物などにも珍重された。⁽³¹⁾ 原産地はインド。

(30) 丁子 → kruidnagelen

kruidは「食用[薬用・香料]植物」、nagel(-en)は「釘、(丁子)」の意。てんにん科の常緑喬木。その蕾は釘の形をした小鱗の集合体。蕾を蒸留して油を採取する。果実からも油をとる。丁子油は、鎮痙・鎮痛・覚醒・健胃の要薬とされた。⁽³²⁾ 原産地はモルッカ

諸島アンボイナ。

(31) 胡椒 → peper

peperは「胡椒」の意。オランダ船が輸入する胡椒は主に黒胡椒であった。黒胡椒は胡椒の実の赤く熟しかけたのを採取し、果皮が黒色に変わるまで数日放置するか、またはいったん熱湯に入れたのち日に干した黒色または黒褐色のもの。特異の芳香と強い辛味がある。⁽³³⁾ 日本ではどのように使用されていたか必ずしも明かでない。薬剤として諸薬に配合したことはあったが主薬ではなかった。胡椒は主として対馬藩で買入れて朝鮮貿易に利用していたものといわれている(対州除胡椒)。⁽³⁴⁾ 原産地はジャワ島。

表5 安政3年(1856)オランダ船2艘(Resident van Son, Valparaiso)脇荷物(反物類)

	切本帳 a (8月)		切本帳 b (9月)		切本帳 C (10月)	
	品名	貼付枚数	品名	貼付枚数	品名	貼付枚数
<139>	い類違薄手嶋羅紗	1	い類違薄手嶋羅紗	0	い類違薄手嶋羅紗	1
<140>	ろ	1	ろ 同	0	ろ 同	1
<141>	は	1	は 同	0	は 同	1
<142>	に	1	に 同	0	に 同	1
<163>	い 又 布 嶋	12	い又布嶋(イ〜ヲ)	12	い 又 布 嶋	12
<164>	ろ 又 布 嶋	11	ろ 同(イ〜ヌ)	10	ろ 又 布 嶋	10
<161>	い類違尺長おく嶋	6	い類違尺長奥嶋(イ〜ハ)	6	い類違尺長奥嶋	6
<162>	ろ 同	7	ろ 同(イ〜ト)	7	ろ 同	7
<165>	幅 廣 嶋 木 綿	2	幅 廣 嶋 木 綿	1	巾 廣 島 木 めん	2
<160>	幅 廣 白 綾 木 綿	2	幅 廣 白 綾 木 綿	1	巾 廣 白 綾 木 綿	2
<158>	幅 廣 白 金 巾	1	幅 廣 白 金 巾	1	巾 廣 白 金 巾	3
<159>	幅 廣 白 綾 金 巾	1	幅 廣 白 綾 金 巾	1	同 白 綾 金 巾	1
<154>	幅 廣 赤 紋 金 巾	4	幅 廣 赤 紋 金 巾(イ〜ハ)	6	同 赤 紋 金 巾	6
<155>	い 幅 廣 赤 金 巾	1	い 幅 廣 赤 金 巾	1	い 巾 廣 赤 金 巾	3
<156>	ろ	1	ろ 同	1	ろ 同	2
<157>	は	1	は 同	1	は 同	2
<143>	尺 長 上 更 紗	2	尺長上更紗(イ〜ホ)	5	尺 長 上 皿 紗	5
<144>	い 尺 長 皿 紗	3	い尺長皿紗(イ〜ハ)	3	い 尺 長 皿 紗	3
<145>	ろ 尺 長 更 紗	3	ろ 同(イ〜ニ)	4	ろ 尺 長 皿 紗	4
<146>	は 尺 長 更 紗	5	は 同(イ〜ホ)	5	は 同	6
<147>	に 尺 長 皿 紗	4	に 同(イ〜ニ)	4	に 尺 長 更 紗	3
<148>	ほ 尺 長 更 紗	10	ほ 同(イ〜ハ)	3	ほ 同	3
<149>	へ 尺 長 更 紗	4	へ 同(イ〜ニ)	4	へ 同	4
<150>	と 尺 長 皿 紗	4	と 同(イ・ロ)	2	と 同	2
<151>	ち 尺 長 更 紗	4	ち尺長皿紗(イ〜ホ)	5	ち 尺 長 さ ら さ	4
<152>	り 尺 長 皿 紗	10	り 同(イ〜ヌ)	10	り 同	10
<153>	ぬ 尺 長 更 紗	3	ぬ 同(イ〜ハ)	3	ぬ 尺 長 更 紗	3

註・切本帳 a は、「辰紅毛船式艘脇荷物切本」(鶴見大学図書館所蔵)。

切本帳 b は、「辰紅毛船脇荷物端物切本帳」(東京大学史料編纂所所蔵)。

切本帳 C は、「辰紅毛船本方脇荷物切本帳」(長崎歴史文化博物館所蔵)。

・切本帳 a には、裂名称を記さない6枚の裂が貼付されているが、本表には特に記していない。

(32) い錫、(33) ろ錫 → tin

tinは「錫」。日本において錫は真鍮および真鍮銭鋳造に用いられた。⁽³⁵⁾ 原産地はバンカ島。

(34) 紫檀 → kaliatoerhout

kaliatoerはインドの都市Caliatour (=Kistanapatnam) に由来する。houtは「木」の意。樹皮は生木では赤く、伐採後は紫に変わる。材は暗赤色で質堅く、インドでは染料にもしたが、日本では主として扇子の骨、手箱、机などの調度品の材としたようである。⁽³⁶⁾ 原産地はインド。

(35) 水銀 → kwikzilver

kwikzilverは「水銀」のこと。辰砂(水銀と硫黄との化合物)を焼いてつくる。金の精錬、銀器・鏡などの金属の研磨、朱墨、漆器、雷汞(雷管式小銃に用いる起爆剤)、甘汞などの製造に用いる。甘汞の粉末を汞粉ほらやといい、疥癬・瘡瘍かいせん・瘡瘍できもの・黴毒などの要薬とした。⁽³⁷⁾

(36) (37) 肉豆蔻 → notenmuscaat

noot (noten) は「堅果」の意。muscaatはナツメグ(肉豆蔻)。日本では搾油または蒸留油をとり、神経痛、健胃、矯臭などの薬剤とした。⁽³⁸⁾ 原産地はモルッカ諸島バンド。

(38) い蘇木、(39) ろ蘇木、(40) は蘇木 → sapanhout
sapanhoutは「蘇芳木」のこと。また、sapangは古
代ジャワ語で「赤い」の意。⁽³⁹⁾ houtはオランダ語で
「木」の意。マメ科の落葉小喬木で植物染料の一つ。
日本において蘇芳木は生糸・絹織物の染色に不可欠の
ものであった。⁽⁴⁰⁾ 原産地はスンバワ島。

(41) 壺番白砂糖、(42) 式番白砂糖 → suiker
suikerは「砂糖」の意。原産地はジャワ島。

(43) 荷包鉛 → platlood
platは「平らな」、loodは「鉛」の意。染織品の包装
に用いた鉛が荷ほどき後に残ったもの。鉛は主として
金・銀貨幣の改鑄、銅銭鑄造に用いられた。⁽⁴¹⁾

(44) — → laken schaaurood
lakenは上述「ラシャ」の意。schaauroodは「緋色」
の意。緋色の大羅紗は特に「猩々緋」と呼ばれ珍重さ
れた。原産地はヨーロッパ。オランダ産であろう。な
お、本品は、献上・進物品として使用されたため、落
札帳には記されていない。

(45) — → suiker terug van de hofreis
suiker terug van de hofreisを訳すと、「江戸参府か
ら戻ってきた砂糖」という意になるが、これは、江戸
参府に持参し使用せずに持ち帰った砂糖。なお、安政3
年はオランダ人による江戸参府はされず、阿蘭陀通詞
がオランダ人に代わって出府している。

(46) — → suiker voor de hofreis
suiker voor de hofreisを訳すと、「江戸参府用の砂
糖」という意になるが、これは江戸参府の経費にあて
られたものであろう。⁽⁴²⁾ なお、(45) 同様、阿蘭陀通
詞による出府である。

(47) — → Spaansche matten
スペイン銀貨。「銀錢」と訳された。日本では貨幣
改鑄の素材とされた。⁽⁴³⁾ これは取引用のためではなく、
オランダ商館の日常経費にあてるために持ち渡ら
れたものである。⁽⁴⁴⁾

上記本方荷物の品目の内、染織類と象牙・紫檀・水
銀はオランダ本国より出荷され、バタヴィア経由で長
崎に持ち渡られた品々である。⁽⁴⁵⁾

第5章 脇荷物について

つづいて、日蘭両史料の照合によって得られた安政3
年の脇荷物の日蘭商品名より、各商品が一体いかなる
品物であったのか考察を加えておきたい。以下、商品
番号は、表2に従って記したものであり、品目名は日本
側商品名にオランダ側商品名を突き合わせる形で表記
していく。

<1>色硝子切子銘酒瓶 → gekleurde flesschen
gekleurdeは「色のついた」、fles (-schen) は「瓶」

の意。色のついた瓶。ガラス製と考えられる。

<2>壺番切子銘酒瓶 → likeur karaffen 1^{ste} soort

<3>式番切子銘酒瓶 → likeur karaffen 2^{de} soort

<4>三番切子銘酒瓶 → likeur karaffen 3^{de} soort

<5>四番切子銘酒瓶 → likeur karaffen 4^{de} soort

likeurは「リキュール」、karaf (-fen) は「デカン
タ」、soortは「種類」の意。リキュール用デカンタ第
1種～第4種。ガラス製と考えられる。

<6>色硝子切子水呑、<7>金縁繪入水呑 → gekleurde
bierglazen

gekleurdeは上述。bierglas (bierglazen) は「ビール
用のグラス」の意。色のついたビールグラス。

<8>壺番金縁金絵角瓶 → likeur flesschen 1^{ste} soort

<9>式番金縁金絵角瓶 → likeur flesschen 2^{de} soort

likeur, fles (-schen) は上述。リキュール用の瓶第1
種・第2種。

<10>壺番角臺こつふ → glazen □ v. 1^{ste} soort

<11>式番角臺こつふ → glazen □ v. 2^{de} soort

<12>三番角臺こつふ → glazen □ v. 3^{de} soort

<13>壺番臺こつふ → glazen ○ v. 1^{ste} soort

<14>式番臺こつふ → glazen ○ v. 2^{de} soort

<15>三番臺こつふ → glazen ○ v. 3^{de} soort

<16>四番臺こつふ → glazen ○ v. 4^{de} soort

glas (glazen) は「グラス」、v. (=voet) は「足、
脚」の意。soortは上述。四角い脚 (□) の付いたグラ
ス第1種～第3種。丸い脚 (○) の付いたグラス第1種～
第4種。

<17>壺番角形薬瓶 → □ stopflesschen 1^{ste} soort

<18>式番角形薬瓶 → □ stopflesschen 2^{de} soort

<19>三番角形薬瓶 → □ stopflesschen 3^{de} soort

<20>四番角形薬瓶 → □ stopflesschen 4^{de} soort

<21>五番角形薬瓶 → □ stopflesschen 5^{de} soort

<22>六番角形薬瓶 → □ stopflesschen 6^{de} soort

<23>壺番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 1^{ste} soort

<24>式番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 2^{de} soort

<25>三番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 3^{de} soort

<26>四番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 4^{de} soort

<27>五番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 5^{de} soort

<28>六番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 6^{de} soort

<29>七番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 7^{de} soort

<30>八番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 8^{ste} soort

<31>九番無地薬瓶 → ○ stopflesschen 9^{de} soort

stopfles (-schen) は「栓をした瓶」の意。角形の栓
(□) をした瓶第1種～第6種。丸形の栓 (○) をした瓶
第1種～第9種。

<32>壺番白焼金縁金絵長鉢 → porceleine broodmanden

porceleineは「磁器」、broodmand (-en) は「パンか
ご」の意。磁器製のパンかご。

<50>壺番白焼金縁繪入花生、<51>式番白焼金縁繪入花生 → gekleurde bloemvazen

gekleurdeは上述。bloemvaas (-vazen) は「花瓶」の意。色のついた花瓶。磁器製と考えられる。

<57><58>白焼金縁繪入茶器 → dejeuner 1^{ste} soort, dejeuner 2^{de} soort

dejeunerは「朝食用の茶器セット」の意。soortは上述。朝食用茶器セット第1種・第2種。磁器製と考えられる。

<66><67>白焼八寸鉢 → borden, soepborden

bord (-en) は「皿」、soepbord (-en) は「スープ皿」の意。磁器製と考えられる。

<68>白焼七寸鉢 → kleine borden

kleineは「小さい」の意。bord (-en) は上述。小皿。磁器製と考えられる。

<78>壺番硝子板 → glasruiten 1^{ste} soort

<79>式番硝子板 → glasruiten 2^{de} soort

<80>三番硝子板 → glasruiten 3^{de} soort

<81>四番硝子板 → glasruiten 4^{de} soort

glasruit (-en) は「窓ガラス」の意。soortは上述。窓ガラス第1種～第4種。

<82>壺番屑硝子板 → glasruiten gebroken 1^{ste} soort

<83>式番屑硝子板 → glasruiten gebroken 2^{de} soort

glasruit (-en)、soortは上述。gebrokenは「壊れた」の意。日本側では「屑」としている。破損した窓ガラス第1種・第2種。

<84>壺番フリツキ延板 → blik, dubbeld

<85>式番フリツキ延板 → blik, enkeld

blikは「ブリキ板」、dubbeldは「二重の」、enkeldは「一重の」の意。blik, dubbeldは厚いブリキ板、blik, enkeldは薄いブリキ板と考えられる。

<86>鼻目鏡 → brillen

bril (-len) は「眼鏡」の意。

<87>外科道具 → chirurgicale instrumenten

chirurgicaleは「外科(用)の」、instrument (-en) は「道具」の意。外科用の道具。

<88>鎖り付袂時計 → horologie / gouden /

horologieは「時計」、goudenは「金の」の意。金時計。懐中時計。

<89>晴雨昇降 → barometer

barometerは「気圧計」の意。

<90>寒暖晴雨昇降 → thermometer

thermometerは「温度計」の意。

<91>鼠取 → botte knippen

botteは「なまくらな」、knip (-pen) は「(鳥獸を捕らえる) わな」の意。先端のとがっていないわな。捕らえるのに鋭利ではなくなまくらな刃のついた鼠取りであろう。

<92>竜吐水 → brandspuit met toebehooren, kleinste soort

brandspuitは「消火ポンプ」、met toebehoorenは「付属品つきの」、kleinste soortは「最小種」の意。付属品つきの最小種の消火ポンプ。

<93>壺番フリツキ箱 → blikken trommels

blikkenは「ブリキ製の」、trommel (-s) は「(ブリキの) 箱」。ブリキの箱。

<94>式番フリツキ箱 → blik uit pak kisten

blikは「ブリキ板」、pak kist (-en) は「荷造り用の箱」の意。荷造り用の箱に使われていたブリキ板。

<95>アセタスプリウムヒイ → acetas plumbi

酢酸鉛。収斂性止血薬に用いる。⁽⁴⁶⁾

<96>ボーラキス → borax

硼砂。ガラスの原料、釉(うわぐすり)・ろうづけ助剤などとして用いられたと考えられる。⁽⁴⁷⁾

<97>ブラークウエインステーン → braak wijnsteen

braakは「未開拓の」、wijnsteenは「酒石」(ワイン醸造樽の底に沈殿する物質)の意。粗酒石。酒石英、酒石酸などをつくるのに用いる。⁽⁴⁸⁾

<98>サルアルモニヤシ → sal-ammoniac

塩化アンモニウム。牛馬・駱駝などの動物の尿を凝固したものに海塩、煙煤を加え、水溶液を濾過、蒸散して固めたもの。止痢・去痰に用いる。石灰精^{エキス}を加えて発汗・解熱にも用いた。⁽⁴⁹⁾

<99>エキスタラクトシキユータ → extract cicutae

extractはラテン語で「エキス剤」、cicutaeは同じくラテン語で「ドクニンジン」の意。成分としてアルカロイドConiineを含む。ギリシアの哲人ソクラテスが自殺のさい使用したという。⁽⁵⁰⁾

<100>エキスタラクトヒヨシヤムス → extract hijosciamus

はしりどころ類の有毒草ひよすhyoscyamus nigerから抽出するアルカロイド。瞳孔散大剤、神経鎮静剤に用いる。⁽⁵¹⁾

<101>ラスセンカル → verdikte ossengal

verdikteは「凝結した」、ossengalは「牛胆」の意。牛の胆嚢。健胃・駆風剤に用いる。⁽⁵²⁾

<102>ラーピスイフリナーリス → lapis infernalis

lapisはラテン語で「石」、infernalisは同じくラテン語で「地獄の」の意。硝酸銀棒。オランダ語でhelse steen(地獄石)。幕末期に地獄石と訳し、明治初期に硝酸銀棒としている。腐食薬。疣・痣・^{いぼ}・^{あざ}・^{たこ}、手術後の皮膚の隆起などを焼き取るのに用いた。⁽⁵³⁾

<103>セメンシーナ → semencinae (wormenkruid)

semencinaeはラテン語で「シナの種子」の意。きく科のよもぎ類に属する小灌木。オランダ語でwormenkruid。シリア・ペルシア地方では、原野、水辺に自生

する。蕾はサントニンの含有が多い。乾燥した蕾または果実を細末とし、あるいは水煎して小児の回虫・蟯虫駆除の聖薬とする。シリアのアレppo産を名品とした。⁽⁵⁴⁾

<104>テリヤアカ → Venetiaansche theriac

Venetiaanscheは、「ベネチア産の」の意。テリヤアカtheriacは、有毒動物に対して防禦・対抗する「解毒薬」という意味のギリシア語テリアケtherikeが語源といわれる。

テリヤアカtheriacaはさまざまな薬物を煉り合わせた内服薬。ローマのネロ帝時代にすでにあったといわれる。その処方には古方、新方があるが、古方は60種以上の薬物からなっている。7世紀中期には中国、唐の本草書にも記され、百痛を治す極めて貴重な薬とされたという世界的名薬である。18世紀末から19世紀になるとテリヤアカは、アヘンを主薬とする6種程の薬物からなり、鎮痛・鎮痙薬となる。ここで輸入されているテリヤアカは後者のものと考えられる。⁽⁵⁵⁾

<105>紺青 → Berlijnsch blaauw

Berlijnschは「ベルリンの」、blauwは「青」の意。化学合成された青色顔料プルシアンブルーPrussian blueのこと。プルシアンブルーはプロシアにおいて1704年から1707年の間に発見され、1730年頃ヨーロッパにおいて広まりをみせ、浮世絵など日本で広く普及したのは文政12年(1829)頃とされている。⁽⁵⁶⁾

<106>ヲクリカンキリ → kreeftsoogen

ヲクリカンキリkreeftsoogen(ラテン名:oclicancricri)は、ザリガニの胃の中のできる結石。ただし、kreefts(cancricri)は「ザリガニの」、oogen(oclicri)は、「目玉」の意。制酸剤。小児の痢(ひきつけ・驚風)・胃痛・止痢に効があるとされた。中国名螂蛄石(らこせき)。⁽⁵⁷⁾

<107>ヤラツパ → jalappe

ヤラツパはヒルガオ科の蔓草。その球形の根から瀉下の良剤を得る。回虫・条虫を駆除する作用もあり、上述のセメンシーナに加えて用いた。ヤラツパは南米メキシコ東部の都市ヤラツパにちなむ。⁽⁵⁸⁾

<108>コロンポー → radix columbo

ツツラフジ科の多年生蔓草。セイロン(現、スリランカ)のコロンボ産という。根を散剤またはエキス剤とし、消化不良・慢性下痢に用いた。⁽⁵⁹⁾

<109>ケレムルタルター → cremortart

重酒石酸カリウム。酒石酸水素カリウム。利尿瀉下薬に用いる。⁽⁶⁰⁾

<110>エイスランスモス → IJslandsche mos

IJslandsche mosは「アイスランドの苔」の意。滋養、強壯の効あるものとされ、肺病の要薬とされた。⁽⁶¹⁾

<111>細末ポツクホウト → pokhoutzaagsel

pokは「瘡」、houtは「木」、zaagselは「おがくず」(こまかい粉を意味するのであろう)の意。ラテン語名グアイアクムguaiacum。西インド諸島、南アメリカに自生するハマビシ科の低木。オランダ通詞は「癒瘡木」と訳している。ヨーロッパでは16世紀に20年代から梅毒・痛風の要薬として大いに用いられた。⁽⁶²⁾

<112>ヒヨシヤムス → herba hijosciamus

はしりどころ類の有毒草ひよすhyoscyamus nigerの葉。ひよす葉。これから抽出するアルカロイドは神経鎮静剤となる。⁽⁶³⁾ 上述<100>参照。

<113>カミルレ → kamillen bloemen

カミルレは、キク科の1・2年草カモミルラchamomilla Romanaの花(bloem(-en))を乾燥したもので、発汗・解熱薬とされた。オランダ人はこの草をkamilleといった。⁽⁶⁴⁾

<114>センナ → senna bladen

sennaは熱帯産のまめ科の灌木。blad(-en)は「葉」の意。センナ葉。葉は水煎して緩下剤とする。ペルシアのイスパハンで多く集散していた。⁽⁶⁵⁾

<115>ケンチヤンウヲルトル → gentiaan wortel

gentiaanは「りんどう」、wortelは「根」の意。りんどう科Gentiana lutea L.の根と根茎。健胃剤となる。⁽⁶⁶⁾

<116>ジキターリス → herba digitalis

ジキターリスはゴマノハグサ科の多年草。その葉から強心薬ジキターリスを抽出する。ただし、『名物考』には未だ強心効験の記載はなく、利尿薬としている。⁽⁶⁷⁾

<117>アルニカブルーム → arnica bloemen

アルニカの花。アルニカはキク科の多年草。根または花を乾燥して浸剤(振出薬)とし、神経虚脱症に用いた。すなわち覚醒薬。⁽⁶⁸⁾

<118>マク子シヤ → magnesia

酸化マグネシウム。magnesia albaをつくるのに用いる。マグネシア・アルバは制酸・緩下剤として使用され、腰部・脇腹などの疼痛をおさえるのに偉効があるとされた。また瀉利塩(硫酸マグネシア。発汗・緩下剤)をつくるのに用いた。⁽⁶⁹⁾

<119>キナキナ → cortex chinae

chinaeは「キナ皮、キナの木」、cortexはラテン語で「樹皮」の意。キナはアカネ科の常緑高木。ペルー・ボリビアなどアンデス山地原産の薬用植物。その樹皮から解熱薬、特にマラリア熱の特効薬キニーネquinineその他のアルカロイドを採る。また樹皮のアルコール浸出液を蒸散してエキスをつくり、健胃・強壯薬にした。キニーネを「quina quina」といい、化政期以降、輸入例が多い。マラリヤ(瘧)だけでなく一般解熱にも用いた。⁽⁷⁰⁾

<120>亜麻仁 → lijnzaad

lijnzaadはアマ科のあまの種子。「仁」は種子の意。これから搾油して緩下剤とする。灌腸にも用い、水銃（スポイト）で肛門に注入する。⁽⁷¹⁾

<121>セアユイン → zee ajuin

海葱（海ねぎ）。ゆり科の多年生草本。地中海沿岸に多く野生するが、オランダでは栽培していた。その玉ねぎ状の球根は利尿に奇効がある。痰切または吐剤ともした。⁽⁷²⁾

<122>芦荟 → Kaapsche aloë

芦荟はアロエのこと。アロエaloëは、ユリ科の多年草。Kaapscheは「喜望峰の」の意。喜望峰から出荷されたアロエ。その葉から採る汁液を濃縮、半固体にしたのが、ガム・アロエ。緩下剤。⁽⁷³⁾

<123>サボン → zeep

石鹸。『名物考』によると、アルカリ塩とオリーブ油、亜麻仁油を合わせ、煮て作るもので、羅紗、毛布、フラスコの洗濯に必須であり、褥瘡膏葉の材料にもするとしている。⁽⁷⁴⁾

<124>ブロインステーン → bruinsteen

酸化マンガン。⁽⁷⁵⁾

<125>ホフマン → Hoffmanns droppels

ドイツの薬学者フリードリッヒ・ホフマンF. Hoffmann創製の甘草エキスdrop van soethoutのこと。⁽⁷⁶⁾

<126>スプリーテスニツトルトルシス → spiritus nitri daleis

甘硝石精。解熱剤。⁽⁷⁷⁾

<127>サルアルモニヤシ精氣 → spiritus sal-ammoniac

塩化アンモニア。鹵砂。牛馬・駱駝などの動物の尿を凝固したものに海塩、煙煤を加え、水溶液を濾過、蒸散して固めたもの。止痢・去痰に用いる。石灰精を加えて発汗・解熱にも用いた。⁽⁷⁸⁾ <98>参照。

<128>いコーヒー豆 → koffij in blikken

<129>ろコーヒー豆 → koffij in zakken

koffijは「コーヒー豆」、in blik (-ken) は「缶に入った」、in zak (-ken) は「袋に入った」の意。江戸時代、コーヒーは嗜好飲料ではなく薬であった。『厚生新編』では精神を快活清爽にし、食後に飲めば消化を助けるとする。緒方洪庵も揮発衝動剤の一つの薬として挙げている。⁽⁷⁹⁾

<130>サフラン → saffraan

サフランsaffraanは、アヤメ科クロカス属の一種。花蕊の柱頭を乾燥し、健胃・鎮静剤とする。アルコールで浸出したサフラン・チンキは優れた発汗・解熱剤とされた。また、関節痛を和らげ、結腫を軟化し、内腫を消す効もあるので膏葉にも用いるとする所見もある。⁽⁸⁰⁾

<131>痰切 → drop

乾燥した甘草の根を蒸留してとるエキス。すなわち甘草エキス。あめ玉状に固めて粒にしたもの。咳止

め・去痰薬。⁽⁸¹⁾

<132>テレメンテイン油 → terpentijn olie

マツ科の植物、特に松の木から採る含油樹脂（松やに）を蒸留して得る揮発性油。硫黄の溶剤として皮膚病薬をつくるのに用いた。軟膏。⁽⁸²⁾

<133>バルサムコツハイハ → balsem copaivae

南米産のマメ科コパイバ樹copaibaから採れる芳香のある含油樹脂balsam。肺病や気管支炎・膀胱炎・淋病の治療に用いる。⁽⁸³⁾

<134>カヤフーテ油 → kajapoetie olie

カヤフーテkajapoetieはテンニン科の高木。マライ語で「白い木」の意。その蒸留油は胃痙攣・胃痛に俵効がる。モルッカ群島中のバンダ島産が名品であった。⁽⁸⁴⁾

<135>ホルトカル油 → Genua olie

Genuaは「ジェノバ（イタリア北西部の都市）」、olieは「油」の意。オリーブ油。オリーブの木の熟果を搾ってとる油。アラビアゴム漿（後述）に交えて融解し鎮痛・滑利剤とし、膏葉の基剤にもした。⁽⁸⁵⁾

<136>水牛爪 → buffel hoeven / witte /

buffelは「水牛」、hoef (hoeven) は「ひづめ」、witteは「白」の意。水牛角buffel hoornよりも粘質で、製品に光沢がある。主として印材とする。⁽⁸⁶⁾

<137>藤 → bindrotting

bindrottingは「縛るための籐」の意。rotting籐（藤）は、やし科の蔓性木本。マライ語でrotan。船網に編み、モッコ（網目に編んだ担荷用の農具。鉾山で鉾石を担いだすにも用いた）などにもつくった。⁽⁸⁷⁾

<138>荷包鈿鋸 → zink uit eene pak kist

zinkは「トタン板」の意。eene pak kistは荷造り用の箱。荷造り用の箱に使われていたトタン板。

<139>い類違薄手嶋羅紗 → flanel, lang 76 1/2 el

<140>ろ類違薄手嶋羅紗 → flanel, lang 83 el

<141>は類違薄手縞羅紗 → flanel, lang 77 el

<142>に類違薄手縞羅紗 → flanel, lang 52 3/4 el

flanelはフランネル。フランネルは、平織あるいは綾織で、両面に軽く起毛してある薄地の毛織物。⁽⁸⁸⁾「切本帳」よりこの時の輸入品が平織であることがわかる。langは反物の長さを示す。

<143>尺長上更紗 → geenlumineerde chitsen

geenlumineerdeは「着色した」の意。chits (-en) は上述更紗。「切本帳」より赤地に小花文様の更紗であることが確認できる。

<144>い尺長更紗 → foulard chitsen fantaisie

foulardはフランス語でフーラード（ネクタイ・ネッカチーフなどに用いる薄地の綾絹）。fantaisieは「意匠をこらした、変わり模様の」の意。chits (-en) は上述更紗。「切本帳」より黒地に花柄文様の更紗である

ことが確認できる。なお、本品は平織である。

<145>ろ尺長更紗 → **zwart op rood gedrukte chitsen**
zwartは「黒い」、roodは「赤い」、gedrukteは「プリントした」の意。chits (-en) は上述更紗。「切本帳」より赤地に黒色で幾何学文様や花柄文様をプリントした更紗であることが確認できる。

<146>は尺長更紗 → **veel kleurige chitsen**
veelは「大変」、kleurigeは「色彩に富んだ」の意。chits (-en) は上述更紗。「切本帳」より緑地・黄地・白地に花柄文様の更紗であることが確認できる。

<147>に尺長更紗 → **leminios, bruine**

<148>ほ尺長更紗 → **leminios blaauwe**
<149>へ尺長更紗 → **leminios drie kleurige**
leminiosは未詳。bruineは「茶色の」、blaauweは「青い」、drie kleurigeは「三色の色彩に富んだ」の意。「切本帳」より<147>は茶地に幾何学文様、<148>は青地に幾何学文様、<149>は茶・赤・白三色からなる格子柄に幾何学文様の更紗であることが確認できる。

<150>と尺長更紗 → **meubel chitsen**
meubel chits (-en) は家具用の更紗。「切本帳」より太い縦縞に花柄文様の更紗であることが確認できる。

<151>ち尺長更紗 → **mignonette rose en paarsche**
mignonetteはフランス語で「小さくかわいらしい」の意、roseは「バラ色の」、paarscheは「紫色の」の意。「切本帳」より紫地に小花文様と薄い茶色地に花柄文様の更紗であることが確認できる。

<152>り尺長更紗 → **donker paarsche chitsen**
donker paarscheは「濃い紫色の」の意。chits (-en) は上述更紗。「切本帳」より白地に小紋や花柄の更紗であることが確認でき、濃い紫色の意匠のものもあるが、その他赤色や青色のものも含まれている。

<153>ぬ尺長更紗 → **wit geruite chitsen**
witは「白い」、geruiteは「格子縞の」。chits (-en) は上述更紗。「切本帳」より白地に小花文様の更紗であることが確認できる。

<154>幅廣赤紋金巾 → **cambrics, Adrianopel rood**
cambric (-s) は上質かなきん、Adrianopelはアドリアノーブル（トルコの都市、エディルネの旧称）のこと。roodは「赤い」の意。「切本帳」より地紋で幾何学文様をあらわした赤金巾であることが確認できる。

<155>い幅廣赤金巾 → **effen rood katoen 7/4**

<156>ろ幅廣赤金巾 → **effen rood katoen 6/4**

<157>は幅廣赤金巾 → **effen rood katoen 5/4**
effenは「無地の」、roodは「赤い」、katoenは「綿布」の意。無地の赤金巾。

<158>幅廣白金巾 → **wit, katoen**

witは「白い」、katoenは上述「綿布」。白金巾。

<159>幅廣白綾金巾 → **witte jeans**

<160>幅廣白綾木綿 → **ruwe jeans**

jeansは丈夫な綾織の綿布。ruweは「加工していない」の意。「切本帳」より綾織の金巾・綿布であることが確認できる。

<161>い類違尺長奥縞 → **taffachelassen 6/4**

<162>ろ類違尺長奥縞 → **taffachelassen 5/4**
taffachelas (-sen) は上述。

<163>い又布嶋 → **cotonnetten 6/4**

<164>ろ又布嶋 → **cotonnetten 5/4**

cotonnettenは、絹、絹と綿の交織、もしくは亜麻布といわれる。⁽⁸⁹⁾「切本帳」より紺地に白や青の各種格子縞の綿織物であることが確認できる。

<165>幅廣嶋木綿 → **blaauw gestreepte nikantias**

blaauwは「青い」、gestreepteは「縞文様」の意。nikantiasはコロマンデル産の青と白の縞文様の綿織物。⁽⁹⁰⁾「切本帳」より紺と白の縞文様の綿織物であることが確認できる。

<166>天地球 → **aard en hemelglobe met toebehooren**
付属品付きの地球儀と天球儀。

<167>ミコラスコーフ → **avondmicroskoop / defect /**
欠陥のある顕微鏡。

<168>リクトポンプ → **luchtpomp / defect /**
欠陥のある空気ポンプ。

<169>アラヒヤコム → **Arabische gom**

Arabische gom (アラビアゴム) は、マメ科の高木アラビアゴムノキの分泌する樹脂を固まらせたもの。肉豆蔻油・オリーブ油などの薬用油、龍腦、麝香など油性のものを薬剤とするばあい、これらを溶かすのに用いるアラビアゴム漿（その細末に沸湯を加えて研出した膠質溶液）をつくる。⁽⁹¹⁾

<170>郡青 → **ultra marin**

ウルトラマリン。紺青（プルシアンブルー、<105>参照）とともに代表的な青色無機顔料。硫黄を含むアルミノシリケート錯体の微粒子。光、熱、溶媒、アルカリに対して強いが、紺青と対照的に酸に対して弱く分解退色する。⁽⁹²⁾

<171>ユニカール → **eenhoorn**

eenhoornは「一角獣」の意。これを日本側はユニカール（ユニコーン）と訳している。ユニコーン（unicornisラテン語）は一角の牙から製した解毒薬である。⁽⁹³⁾

<172>鈿丹 → —

鈿丹は通常spiauter（トタン）。

<33>～<49>、<52>～<56>、<59>～<65>、<69>～<77>、（表2の*印に相当する商品、表3参照）

<33>式番白焼金縁金繪長鉢、<34>三番白焼金縁金繪長鉢、<35>壺番白焼金縁繪入長鉢、<36>式番白焼金縁繪入長鉢、<37>三番白焼金縁繪入長鉢、<38>四番白焼金縁繪入長鉢、<39>五番白焼金縁繪入長鉢、<40>壺番白焼金縁繪入皿付ふた物、<41>式番白焼金縁繪入皿付ふた物、<42>白焼金縁繪入七寸鉢、<43>白焼金縁繪入四寸皿、<44>壺番白焼金縁金繪鉢付茶器、<45>式番白焼金縁金繪鉢付茶器、<46>壺番白焼金縁金繪仕切菓子入、<47>式番白焼金縁金繪仕切菓子入、<48>白焼金縁繪入仕切菓子入、<49>白焼金縁仕切菓子入、<52>三番白焼金縁繪入花生、<53>壺番白焼金縁繪入卓下花生、<54>式番白焼金縁繪入卓下花生、<55>三番白焼金縁繪入卓下花生、<56>白焼金縁臺付菓子入、<59>白焼金縁繪入小形茶器、<60>白焼金縁金繪皿付茶器、<61>白焼金縁金繪小形茶器、<62>白焼金縁小形茶器、<63>白焼金縁小形卓子道具、<64>壺番白焼卓子道具、<65>式番白焼卓子道具、<69>白焼金縁四寸皿、<70>壺番焼物器、<71>式番焼物器、<72>白焼金縁置物、<73>壺番白焼繪具摺、<74>式番白焼繪具摺、<75>三番白焼繪具摺、<76>四番白焼繪具摺、<77>五番白焼繪具摺、

↓

dejeuners, compleet ~ すべて揃った茶器セット。
 schaaltes, gouden rand ~ 金縁飾りの小皿。
 bordjes, kleine ~ 小皿。
 gebak manden ~ 菓子入れのかご。
 kinder dejeunerens servies ~ 子供用茶器セット。
 servies, groot / thee / ~ たくさんの茶器セット。
 broodbakken ~ パンかご。
 zuurschaaltjes ~ 酢づけ用の小皿。
 vierkante schaaltes ~ 四角形の小皿。
 bekers in soorten ~ 様々なマグカップ。
 witte mortieren in soorten ~ 様々な白色のすり鉢。
 <73>~<77>の「白焼繪具摺」であろう。
 corbeilles ~ 陶器のかごカ。
 vogels ~ 陶器の鳥の置物カ。
 verschillende schaaltes ~ 種々の小皿。
 zuurschaaltjes ~ 上掲、酢づけ用の小皿。
 saus kommen ~ ソース入れ。
 gekleurde vrucht schalen ~ 色のついた果物を盛る皿。

むすび

以上、本稿においては、安政3年(1856)の本方荷物と脇荷物の取引について考察をおこなってきた。

本方荷物に関して、オランダ側史料⁽⁹⁴⁾より仕入価格を計算し、日本(長崎会所)への販売価格(表1)と照合して示すと表6のようになる。olifants tanden(象

牙)において、やや大きい損失をだしているが、全体としては、若干の収益を出しているようにみえる。しかし、ヨーロッパからバタヴィアまで持ち渡った本方荷物になる品々(染織品・象牙・紫檀・水銀等)にかかった経費が5,675.59グルデンあり、さらに未詳ではあるがバタヴィアから長崎までの輸送経費を考えれば巨額の損出を出していることは間違いあるまい。なお、長崎会所が日本商人に入札販売している収益率は従来と変わりはないが、絶対量の減少により長崎会所にとって日蘭貿易における本方荷物の取引全体の収益は減少しているといえる。

脇荷物に関しては、1856年10月30日(出島)付けのKambang Handel. Rekening van winst en verlies op de lijnwaden, alhier in 1856 aangebragt.⁽⁹⁵⁾(脇荷貿易1856年に輸入された染織品に関する損益の勘定)および、1856年11月2日(出島)付けのKambang-handel. Behaalde prijzen van de ondervolgende in openbare veiling verkochte goederen in 1856 alhier aangebragt.⁽⁹⁶⁾

(脇荷貿易 1856年日本に輸入され入札販売された下記商品の値段)によって、収益率をみるができる。それによると染織品に関しては、<165>blauw gestreepte nikania「幅廣嶋木綿」が仕入値の1/5程度でしか売れず損を出しているが、他の商品は仕入値の1.83倍~3.26倍で売れている。また、その他の品々では1.2倍~395.5倍で売れている。特に高値で売れているのは、<103>semencinae(wormenkruid)「セメンシーナ」395.5倍であり、つづいて<116>herba digitalis「ジキターリス」77.69倍、<127>spiritus sal-ammoniac「サルアルモニヤシ精氣」59.57倍であり、薬品の高収益率を読み取ることができる。

安政3年の場合、本方荷物の取引(別段商法を除く)が51,867.9194478カンパニール(69,157.28グルデン)であり、脇荷物の取引(品代りを除く)が113,116.4カンパニール(181,046.24グルデン)であることより、脇荷物の取引が本方荷物の取引の2.6倍であったことがわかる。さらに、非公開の脇荷物onder's hands verkochte goederen⁽⁹⁷⁾の取引合計額が62,828.58カンパニール(100,525.72グルデン)であり、脇荷物の正規の取引とこの非公開での取引を合計すると281,571.96グルデンとなり、脇荷物全体の取引が本方荷物の取引の4.07倍となる。もはや本方荷物の存在はほとんど意味をなくしつつあり、これをもって日蘭貿易の中核の取引ということはいえない状況になっている。もはや本方荷物ではなく脇荷物の時代をむかえており、オランダ側のめざす自由貿易へと進みつつあることを示しているといえよう。

表6 安政3年(1856)オランダ船2艘(Resident van Son, Valparaiso)本方荷物の仕入値と販売価格

	Goederen	商 品	仕入値(単位:テール)	販売価格(単位:テール)
(1)	laken zwart	黒 大 羅 紗	8.36 / ikje	10.0 / ikje
	laken overige kleuren		8.50 ~ 8.57 / ikje	8.0 / ikje
(2)	{ wit aschgrauw lichtblauw groen olijf grijs casimier diverse kleuren	白 大 羅 紗		
(3)		藍 鼠 色 大 羅 紗		
(4)		花 色 大 羅 紗		
(5)		茶 色 大 羅 紗		
(6)		霜 降 大 羅 紗		
(7)		{ zwart	黒 ふ ら た	5.48 ~ 5.73 / ikje
(8)	{ aschgrauw	藍 鼠 色 ふ ら た		
(9)	{ groen olijf	茶 色 ふ ら た		
(10)	grein schaaurood	緋 呉 羅 服 連	2.88 / ikje	4.5 / ikje
	grein overige kleuren		2.47 ~ 2.74 / ikje	4.3 / ikje
(11)	{ groen olijf olijf wit zwart lichtblauw gedrukte trijp diverse kleuren	藍海松茶色呉羅服連		
(12)		茶 色 呉 羅 服 連		
(13)		—		
(14)		—		
(15)		—		
(16)	{ schaaurood violet olijfsensaai	緋 テ レ フ	3.77 ~ 4.39 / ikje	5.0 / ikje
(17)		桔 梗 色 テ レ フ		
(18)		藍海松茶色テレフ		
(19)	roode hamans	尺 長 赤 金 巾	10.88 / stuk	10.8 / stuk
(20)	taffachelassen verbeterde	上 奥 嶋	8.25 / stuk	10.5 / stuk
(21)	taffachelassen extra fijn 1° soort	壹 番 新 織 奥 嶋	7.69 / stuk	10.7 / stuk
(22)	taffachelassen extra fijn 2° soort	貳 番 新 織 奥 嶋	7.69 / stuk	10.0 / stuk
(23)	Europesche sitsen 1° soort	壹 番 尺 長 上 皿 紗	8.63 / stuk	19.2 / stuk
(24)	Europesche sitsen 2° soort	貳 番 尺 長 上 皿 紗	8.63 / stuk	15.6 / stuk
(25)	Bengaalsche sitsen	弁 柄 皿 紗	1.95 / stuk	3.2 / stuk
(26)	Patna sitsen	皿 紗	1.80 / stuk	2.25 / stuk
(27)	olifants tanden 1° soort	壹 番 象 牙	4.14 / kattie	2.5 / kattie
(28)	olifants tanden 2° soort	貳 番 象 牙	4.14 / kattie	2.0 / kattie
(29)	olifants tanden 3° soort	三 番 象 牙	3.92 / kattie	1.0 / kattie
(30)	kruidnagelen	丁 子	1.50 / kattie	1.5 / kattie
(31)	peper	胡 椒	0.15 / kattie	0.15 / kattie
(32)	tin	} { い ろ 錫	0.25 / kattie	0.25 / kattie
(33)	tin		ろ 錫	25.00 / picol
(34)	kaliatoerhout	紫 檀	0.07 / kattie	0.05 / kattie
(35)	kwikzilver	水 銀	1.35 / kattie	1.0 / kattie
(36)	notenmuscaat	} { 肉 豆 薹	1.00 / kattie	1.0 / kattie
(37)	notenmuscaat			1.00 / kattie
(38)	sapanhout	} { い 蘇 木 ろ 蘇 木 は 蘇 木	0.055 / kattie	0.055 / kattie
(39)	sapanhout			
(40)				
(41)	suiker	} { 壹 番 白 砂 糖 貳 番 白 砂 糖	0.07 / kattie	0.07 / kattie
(42)				
(43)	platlood	荷 包 鉛	—	0.08 / kattie
(44)	laken schaaurood	—	9.25 / ikje	10.0 / ikje

註

- (1) ここでは、オランダの対日政策をはじめとする政治的交渉面に注目した近年の研究を掲げておく。横山伊徳「日蘭和親条約副章について」（『東京大学史料編纂所所報』第22号、昭和63年）、同「日本の開港とオランダの外交－オランダ外務省文書試論－」（荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史Ⅱ 外交と戦争』東京大学出版会、平成4年）、小暮実徳「国家的名声と実益－幕末期のオランダ対日外交政策への一視点－」（『駿台史学』第114号、平成14年）、同「オランダ対日積極外交政策の終焉－日米修好通商条約前後の日蘭関係－」（『駿台史学』第119号、平成15年）、福岡万里子『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』（東京大学出版会、平成25年）、西澤美穂子『和親条約と日蘭関係』（吉川弘文館、平成25年）等。
- (2) 石井孝『日本開国史』（吉川弘文館、昭和47年）198頁参照。『幕末外国関係文書』17（東京大学出版会、昭和47年）399頁参照。
- (3) 横山伊徳「日蘭和親条約副章について」（『東京大学史料編纂所所報』第22号、昭和63年）22頁参照。
- (4) 安政3年には、「阿蘭陀商賣船」2艘の他7月8日（新暦8月8日）に貿易を本務としない「阿蘭陀蒸気船」メデウサ号 Medusaが入津している。
- (5) Bijlaag No.3. Komspsverkoop in 1856. 'Bijlagen Komsps rekening courant Japan 1856' MS.N.A. Japans Archief, nr.1851 (Aanwinsten,1910, I:No.194) (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-133-42) .
- (6) Rekening van den Aparten Handel 1856. MS.N.A.Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910, I:No.227) . (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-134-32) .
- (7) Rekening van den Nieuwen Aparten Handel 1856. MS.N.A.Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910, I:No.227) . (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-134-32) .
- (8) 「〔落札帳〕〔安政三年〕辰一番割至七番割」（杏雨書屋所蔵村上文書）。
- (9) 村上家は、江戸時代、長崎の本博多町に店舗をかまえ、貿易業と両替業ならびに銀貸しを兼営していた家である。村上家の文書は昭和初年頃まで同家に一括所蔵されていたようであるが、現在は長崎歴史文化博物館・長崎大学附属図書館経済学部分館・神戸市立博物館・大阪商工会議所商工図書館・財団法人武田科学振興財団杏雨書屋・個人などに分蔵されている。村上家文書は近世の貿易文書としてもっともまとまった史料群の一つであり、また近世の両替商、輸入工芸品などの研究にとっても貴重な基礎資料といわれている。（神戸市立博物館編『神戸市立博物館館蔵品目録』美術の部11、平成6年、2頁参照）
- (10) 本稿では、日本での取引を中心とする史料に注目しているが、オランダ船が本方荷物として持ち渡ることになっていた品物を記すリストとして1856年7月14日のオランダ東インド総督の決議によって承認されたProject van naar Japan te verzonden kompsgoederen in het jaar 1856（1856年に日本に向けて発送する会社荷物（本方荷物）の企画）がある。また、阿蘭陀通詞が作成した「積荷目録」（オランダ側が提出した送り状を翻訳したリスト）としては、「唐舟阿蘭陀差出帳」を挙げることができるが、本史料は、薬種・荒物を抽出したリストであり、本方荷物全体をみることは残念ながらできない。（表7参照）
- (11) 山脇悌次郎『長崎のオランダ商館』（中央公論社、昭和55年）（以下、『オランダ商館』と略記）194頁参照。呉秀三訳註『シーボルト日本交通貿易史』（雄松堂書店、昭和41年）225～226頁参照。なお、Particuliere Handelsocieteitの貿易取引に関しては、永積洋子「オランダ商館の脇荷貿易について－商館長メイランの設立した個人貿易協会（1826－1830）－」（『日本歴史』第379号、昭和54年）がある。また、脇荷貿易権の賃借人による制度がいつからはじまったかについては別稿にゆずる。
- (12) J. A. van der Chijs著・小暮実徳訳『シェイス オランダ日本開国論』（雄松堂出版、平成16年）354～358頁参照。
- (13) Bijlaag No.6. Kambang Handel. Kambang verkoop in 1856. 'Bijlagen Kambang-rekening Japan 1856' MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910, I:No.283) . (Tōdai-Shiryō Microfilm: 6998-1-135-32) .
- (14) 「〔辰紅毛脇荷見帳〕〔安政三辰四番割〕」（杏雨書屋所蔵村上文書）。
- (15) 本稿では、日本での取引を中心とする史料に注目しているが、オランダ船が脇荷物として持ち渡ることになっていた品物を記すリストとしては、1856年7月11日のden Directeur der Producten en civiele Magazijnen（物産倉庫局長）の書翰に属するAantooning der in het jaar 1856 voor den kambang handel naar Japan te verzenden goederen（1856年に脇荷貿易のために日本に向けて発送する商品の証明）がある。また、阿蘭陀通詞が作成した「積荷目録」（オランダ側が提出した送り状を翻訳したリスト）としては、「唐舟阿蘭陀差出帳」を挙げることができるが、本方荷物同様、本史料は、薬種・荒物を抽出したリストであり、脇荷物全体をみることは残念ながらできない。（表7参照）
- (16) 拙著『日蘭貿易の史的研究』（吉川弘文館、平成16年）（以下、『史的研究』と略記）87頁参照。
- (17) 『史的研究』110頁参照。
- (18) 篠崎家は、長崎地役人として反物目利が始まった寛文11年（1671）に任命されており反物目利仲間の中でも由緒ある家柄である。本帳の作成者は11代篠崎犀次郎と考えられる。
- (19) 芦塚家は、長崎地役人として反物目利が始まった寛文11年（1671）に任命されており註（18）の篠崎家同様、反物目利仲間の中でも由緒ある家柄である。本帳の作成者は9代芦塚孫三郎と考えられる。
- (20) 宮地正人「幕末期旗本用人の生活とその機能」（『白山

表7 安政3年(1856)オランダ船2艘(Resident van Son, Valparaiso)本方荷物・脇荷物の積荷リスト

	積荷目録			積荷目録	
	商 品	数 量		商 品	数 量
	辰紅毛船本方		<114>	セ ン ナ	65 斤
(27)	壹 番 象 牙	399 斤	<115>	ケンチヤンウヲルトル	62 斤
(28)	貳 番 同	219 斤	<116>	シキターリス	41 斤
(29)	三 番 同	420 斤	<117>	アルニカコ ^ル ウム	41 斤
(30)	丁 子	3,388 斤	<118>	マク子シヤ	84 斤
(31)	胡 升	6,624 斤	<119>	キ ナ キ ナ	165 斤
(32) (33)	錫	90,590 斤	<120>	亜 麻 仁	63 斤
(34)	紫 椗	3,040 斤	<121>	セ ア ユ イン	165 斤
(35)	水 銀	198 斤	<122>	芦 薈	42 斤
(36) (37)	肉 豆 ク	529 斤	<123>	サ ポ ン	650 斤
(43)	荷 包 鉛	95 斤	<124>	フ ^ロ イノステイン	160 斤
(38) (39) (40)	蘇 木	138,000 斤	<125>	ホ フ マ ン	45 瓶
(41) (42)	白 砂 糖	173,200 斤	<126>	スプリーテスツルトロス	50 瓶
	ス		<127>	サルアルモニヤシ精氣	20 瓶
	同脇荷		<128>	いコーヒイ豆	160 罐
<95>	アセタスフリユムヒイ	24 瓶	<129>	ろ 同	25 袋
<96>	ホ ー ウ キ ス	30 瓶	<130>	サ フ ラ ン	54 斤
<97>	フラーウエイノステイン	17 瓶	<131>	タ ン キ リ	331 斤
<98>	サルアルモヤシ	20 瓶	<132>	テレメンテイン油	80 硝子
<99>	エキストラクトシキユータ	4 瓶	<133>	ハルサムコツハイハ	10 硝子
<100>	エキストラクトヒヨシヤムス	15 瓶	<134>	カヤフーテ油	24 硝子
<101>	ヲツセンカル	15 瓶	<135>	ホルトカル油	120 硝子
<102>	ラーヒスイソフウナリス	1 瓶	<136>	水 牛 爪	200 斤
<103>	セメンシイーナ	42 斤	<137>	藤	40,700 斤
<104>	テリヤアカ	191 罐	<138>	鉋 丹	35 斤
<105>	紺 青	97 斤	<171>	ウニカウル	124 斤
<106>	ヲクリカンキリ	41 斤		ス	
<107>	ヤ ラ ツ ハ	41 斤		同品代り	
<108>	コ ロ ン ボ ー	41 斤	-	琥 珀	-
<109>	ケレモルタルタリー	40 斤	<170>	郡 青	48 斤
<110>	エイスランソモス	251 斤	<169>	アラヒヤコム	500 斤
<111>	細末ホツクホウト	1,060 斤		ス	
<112>	ヒヨシヤムス	21 斤			
<113>	カ ミ ル レ	190 斤		辰九月	

註・積荷目録は、「唐舟阿蘭陀差出帳」(某所所蔵)。
 ・商品名の頭註の番号は表1・2と照合するものである。

- 史学』第28号、平成4年）7頁参照。
- (21) 『史的研究』111頁参照。
- (22) 安政3年のオランダ船の輸入反物に関する「切本帳」には以上5冊の他に、特殊な「切本帳」として「辰穂新渡り反物類切手本帳」（神戸市立博物館所蔵）（図6）が現存している。本史料は「辰九月十七日」に「長崎今町 唐端物類 菱屋安兵衛」から「八尾様」に送られた切本帳である。本史料の巻末に、
- 右之通新渡之分荒増手本切附直段相記差上置申候、尤入札前二御座候間、直段之義少し之高下ハ御座候得ば御注文被仰付候時分相成丈直引等可仕候、尚又右切本差上候而茂前文申上候通入札前二付御用引ケ何歟御座候事も相分不申候得共成丈心配仕、もし手本通り之品無之候共、似寄之品ニ而も差上仕候間此段御断申上置候、以上とあることより、この切本帳は、菱屋安兵衛が得意先である「八尾様」に対して、入札前に販売予想価格を示し、販売促進を計る目的のものであったと考えられる。
- (23) 『日本国語大辞典』第2版第13巻（小学館、平成14年）773頁参照。岡田章雄「羅紗」（『南蛮随想』岡田章雄著作集Ⅵ、思文閣出版、昭和59年）参照。
- (24) 『日本国語大辞典』第2版第3巻、601頁参照。
- (25) 山脇悌二郎「スタト・ティール号の積荷－江戸時代後期における出島貿易品の研究－」（『長崎談叢』第49輯、昭和45年）（以下、『スタト』と略記）9～10頁参照。Pieter van Dam, *Beschrijvinge van de Oostindische Compagnie*, 2de boek, deel I. 's-Gravenhage, 1927, p.815. bourat.
- (26) Pieter van Dam, *op. cit.*, 2de boek, deel I. p.821. greyn.
- (27) Pieter van Dam, *op. cit.*, 2de boek, deel II. p.454. hammans.
- (28) 『日本国語大辞典』第2版第3巻、861頁参照。
- (29) 『史的研究』「第5章 奥島考－オランダ船の輸入綿織物－」参照。
- (30) 『史的研究』「第6章 オランダ船の更紗輸入」参照。
- (31) 『スタト』15頁参照。
- (32) 山脇悌二郎『近世日本の医薬文化』（平凡社、平成7年）（以下、『医薬文化』と略記）117頁参照。
- (33) 『日本国語大辞典』第2版第4巻、1125頁参照。
- (34) 『オランダ商館』71頁参照。「長崎会所五冊物」（『長崎県史』史料編第4、吉川弘文館、昭和40年、所収）（以下、『五冊物』と略記）160～161頁参照。『医薬文化』128頁参照。
- (35) 『オランダ商館』86頁参照。
- (36) 『スタト』15頁参照。
- (37) 『スタト』15頁参照。
- (38) 『スタト』15頁参照。
- (39) Pieter van Dam, *op. cit.*, 2de boek, deel II. p.461. sappanhout.
- (40) 『オランダ商館』76頁参照。
- (41) 『オランダ商館』83頁参照。
- (42) 『五冊物』153～158頁参照。
- (43) 『スタト』16頁参照。
- (44) 『史的研究』38頁参照。
- (45) Project van naar Japan te verzonden kompsgoederen in het jaar 1856. '1856. Ingekomen stukken' MS.N.A. Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910,I.No.283) . (Tōdai-Shiryō Microfilm: 6998-1-135-32) .なお、インド産の象牙や紫檀がなぜオランダ本国より出荷され、バタヴィア経由で長崎に持ち渡られたかについては、拙著『日蘭貿易の構造と展開』（吉川弘文館、平成21年）（以下、『構造と展開』と略記）「第3章 幕末期の日蘭貿易－嘉永6年（1853）の輸入品を事例として－」を参照。
- (46) 宮下三郎『長崎貿易と大阪－輸入から創業へ－』（清文堂、平成9年）（以下、『輸入から創業へ』と略記）274頁参照。
- (47) 『日本国語大辞典』第2版第11巻、1411頁参照。
- (48) 『スタト』18頁参照。
- (49) 『医薬文化』145～146頁参照。「遠西醫方名物考」（＜原文篇＞『近世歴史資料集成』第Ⅴ期、科学書院、平成20年）（以下、『名物考』と略記）120～125頁参照。
- (50) 『輸入から創業へ』277頁参照。
- (51) 『スタト』23頁参照。
- (52) 『スタト』23頁参照。
- (53) 『医薬文化』155頁参照。
- (54) 『スタト』18頁参照。『医薬文化』139頁参照。
- (55) 『医薬文化』142頁・183～198頁参照。『スタト』22頁参照。『オランダ商館』173頁参照。『名物考』358～359頁参照。
- (56) 『構造と展開』54頁参照。
- (57) 『医薬文化』139頁参照。『スタト』17頁参照。清水藤太郎『薬物需給史』（『明治前日本薬物学史』第1巻、昭和32年）221頁参照。
- (58) 『医薬文化』140頁参照。『スタト』21頁参照。
- (59) 『医薬文化』154頁参照。『スタト』21頁参照。
- (60) 『輸入から創業へ』284頁参照。『名物考』652～657頁参照。
- (61) 『スタト』16頁参照。『医薬文化』152頁参照。
- (62) 『医薬文化』24頁参照。
- (63) 『スタト』23頁参照。『医薬文化』154頁参照。
- (64) 『医薬文化』108・145頁参照。『スタト』19頁参照。『名物考』163～165頁参照。
- (65) 『スタト』19頁参照。『医薬文化』153頁参照。
- (66) 『輸入から創業へ』284頁参照。
- (67) 『医薬文化』152頁参照。『名物考』1046頁参照。
- (68) 『医薬文化』154頁参照。
- (69) 『スタト』17頁参照。
- (70) 『医薬文化』146頁参照。『スタト』16頁参照。

- (71) 『医薬文化』155頁参照。『スタト』22頁参照。
 (72) 『スタト』18頁参照。『医薬文化』152・145頁参照。
 (73) 『医薬文化』148頁参照。
 (74) 『医薬文化』156頁参照。『名物考』832～842頁参照。
 (75) 『輸入から創業へ』306頁参照。
 (76) 『医薬文化』155頁参照。
 (77) 『スタト』23頁参照。
 (78) 『医薬文化』145～146頁参照。
 (79) 『医薬文化』198～201頁参照。『厚生新編』2（恒和出版、昭和53年）401頁参照。
 (80) 『医薬文化』147頁参照。『スタト』24頁参照。『名物考』520頁参照。『和蘭薬鏡』（科学書院、昭和63年）1001～1010頁参照。
 (81) 『医薬文化』145・152頁参照。『スタト』17・20頁参照。『名物考』120頁参照。
 (82) 『医薬文化』138頁参照。『スタト』23頁参照。
 (83) 『医薬文化』56・156頁参照。『名物考』58～61頁参照。
 (84) 『医薬文化』156頁参照。『スタト』25頁参照。
 (85) 『医薬文化』157頁参照。『スタト』25頁参照。『名物考』155～161頁参照。
 (86) 『スタト』24～25頁参照。
 (87) 『スタト』27頁参照。
 (88) 『増補版 服装大百科事典』下巻（文化出版局、平成2年）241頁参照。
 (89) H.Yule & A.C.Burnell, *Hobson-Jobson. A Glossary of Colloquial Anglo-Indian Words and Phrases, and of Kindred Terms, Etymological, Historical, Geographical and Discursive*. London, 1969, p.289. cuttane.
 (90) Pieter van Dam, *op. cit.*, 2de boek, deel I. p.826. niquanias
 (91) 『医薬文化』33～34頁参照。『スタト』17頁参照。
 (92) 『世界大百科事典』3（平凡社、平成元年）383頁参照。
 (93) 宗田一「解説」（『六物新志・稿／一角纂考・稿』江戸科学古典叢書 32、恒和出版、昭和55年）3・9～10頁参照。
 (94) Project van naar Japan te verzonden kompsgoederen in het jaar 1856. '1856. Ingekomen stukken' MS.N.A. Japans Archief, nr.1815 (Aanwinsten, 1910,I:No.283) . (Tōdai-Shiryō Microfilm: 6998-1-135-32) .
 (95) Kambang Handel. Rekening van winst en verlies op de lijnwaden, alhier in 1856 aangebragt. 'Afgegane stukken 1856' MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910, I: No.14) . (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-120-2) .
 (96) Kambang-handel. Behaalde prijzen van de onder-volgende in openbare veiling verkochte goederen in 1856 alhier aangebragt. 'Afgegane stukken 1856' MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910, I : No.14) . (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-120-2) .
 (97) Kambang-handel. Verkooprekening van onder's hands

verkochte goederen. 1856. 'Bijlagen Kambang rekening Japan 1856' MS.N.A. Japans Archief, nr.1890 (Aanwinsten, 1910, I : No.283) . (Tōdai-Shiryō Microfilm : 6998-1-135-32) .
 なお、onder's hands verkochte goederenは、非公開の販売品、すなわち長崎会所での入札にかからない脇荷物の販売品である。この中には注文品やスピンギ号の必需品などが含まれている。

[付記] 本稿で使用した写真（図1・3・4・5・6）については、京都工芸繊維大学美術工芸資料館・東京大学史料編纂所・長崎歴史文化博物館・神戸市立博物館より掲載許可を頂きました。また、本稿のオランダ語表記については、長崎大学非常勤講師イサベル・田中・ファンダーレン氏に校閲頂きました。さらに、本稿作成にあたっては、敬愛大学教授小山幸伸氏・天理大学准教授小暮実徳氏・専修大学非常勤講師西澤美穂子氏より数々の御教示を頂きました。記して深甚なる謝意を表します。